Linuxの最新情報を厳選レポート!!

LINUX NEWS HEADLINE リナックスニュースヘッドライン

May. 2009

Linuxをめぐる環境は日夜進化を続けている。ここでは、Linuxに関する最新情報やトピックスをお伝えしよう

LINUX NEWS HEADLINE

2009.3.13

フランス国家憲兵隊が全PCをUbuntuに移行

OSからメインアプリケーションまで

2009年3月10日、欧州委員会（EC）が運営しているオープンソース推進サイトで、フランス国家憲兵隊が隊内で使用しているパソコンのOSを、すべてWindowsから「Ubuntu」に乗り換えることが発表された。フランス国家憲兵隊は、すでに2005年から「Microsoft Office」を「OpenOffice.org」に、Webブラウザを「Firefox」に、メールクライアントを「Thunderbird」に乗り換えている。合計9万台のパソコンにおよぶ移行が完了する予定の2015年には、約5000万ユーロ（約63億円）の費用削減を見込んでいるようだ。また、移行理由については「Windows Vista」への乗り換えに大きなアドバンテージがないことや、乗り換えによる再教育もそれほど必要ないことなどをあげている。

▶5000万ユーロの費用削減を見込んでの決断

2005年から進めてきた移行がついにOSにまで

Towards the freedom of the operating system: The French Gendarmerie goes for Ubuntu

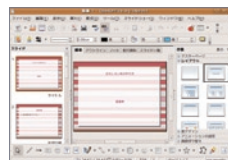
In 2001 the Gendarmerie Nationale, France's national police force, started introducing open source software. The main goals were to gain greater independence and flexibility than proprietary software could offer. The decision to migrate all new workstations to Ubuntu, taken in January 2008, was the most important step in this transition so far.

Quick facts	
Name	Gendarmerie Nationale
Sector	Public
Start date	2008
End date	N/A
Objectives	Migrate all Gendarmerie workstations From Microsoft Windows to Ubuntu GNU/Linux
Target group	Police stations nation wide
Scope	National
Budget	N/A
Funding	National
Achievements	About 5000 workstations

Table of Contents

Introduction......1
Organisation and political background......3
Budget and Funding......3
Technical issues......4
Legal issues......5
Effect on government services......6
Cooperation with other public bodies......6
Evaluation......6
Achievements / Lessons learned......7
Future plans......8
Links......8

2015年までに、すべてのパソコンのOSを「Ubuntu」にすることで、それまでの工程と合わせて約65億円のコストカットになると見込んでいるらしい。左の画像はそのリリース配布用のPDFだ

Firefox
2005年の時点でWEBブラウザは「Firefox」へ移行を開始。メールクライアントも「Thunderbird」へ移行している

OpenOffice.org
定番のオフィススウィートである「MicroSoft Office」も、ここでは使われておらず、2005年から「OpenOffice.org」へ移行済みとなっている

LINUX NEWS HEADLINE

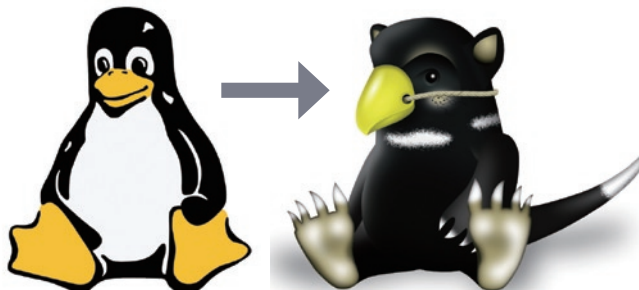
2009.3.23

Linuxのマスコットがタスマニアデビルに

期間限定で定番マスコットを変更

2009年3月23日に公開した、Linuxカーネルの新版2.6.29では、ペンギンロゴ「Tux」からタスマニアデビル「Tuz」への一時的な変更が発表された。これは、「Tuz」をマスコットにオーストラリアタスマニア島で開催された「linux.conf.au 2009」に参加したLinus氏が決定した期間限定の試みで、タスマニアデビルが伝染性腫瘍により絶滅の危機に瀕していることを訴えるもの。同コンファレンスではチャリティオークションの4万豪ドル(約270万円)を、この伝染性の腫瘍研究のために寄付した。

▶「Tuz」を掲げチャリティ・オークションを実施

「Tux」から「Tuz」へ

マスコットが変更されている期間は明言されていない。こういった遊び心もフリーのディストリビューションならでは。

News LINUX NEWS HEADLINE

2009.4.8

「We're Linux」コンテスト結果が発表

60秒以内の作品を自分なりの解釈で披露

2009年1月から作品の募集を開始し、3月下旬から人気投票が行なわれていたLinux Foundation主催のビデオ・コンテスト「We're Linux」。このコンテストの結果発表が4月8日に行われ、グランプリが決定した。グランプリに選ばれたのはイスラエルのグラフィックデザイナー「Amitay Tweeto」氏の「What Does It Mean To Be Free ?」という作品。「自由の意味」というテーマのもと、メッセージと連動した動きが展開されるといった内容で、最後は問いかける形で締められており、もっと作りこめば実際のCMとしても使えそうなクオリティだ。なお、グランプリの副賞今年10月に東京で開催される「Linux Symposium」への招待。ここではグランプリを含めた最終5作品を紹介しよう。

▶一般応募によりグランプリ作品が決定

副賞は「Linux Symposium」への招待

What Does It Mean To Be Free ?

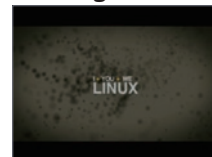
Grand Prix

白を背景に画面内ではカラフルなオブジェクトや文字が踊る。「対Windows姿勢」が強すぎないソフトなソフトな印象も評価の理由ではなかろうか

one video without subtitles, one with

The Future is Open

Challenges At The Office

The Origin…

最終選考まで残ったもののグランプリを逃した4作品も秀逸。同じ題材ながらオリジナリティに富んだ作品となっている

Software LINUX NEWS HEADLINE

～2009.5

PS3 Linux用エミュレータが人気

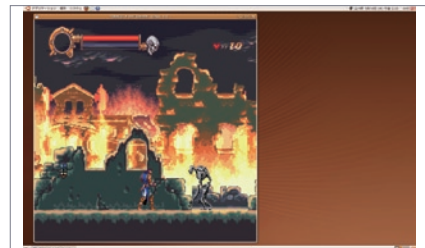
高性能マシンの機能を利用したLinux

PS3が出た当初から、そのスペックやハードディスクを搭載していることなどにより、PS3をパソコンのように利用するテクニックは注目され続けている。フリーでカスタマイズ可能なLinuxは、その目的のためには最適といえるのだ。現在UbuntuやFedoraなどがPS3にインストール可能となっており、さらにエミュレータをインストールすることによってファミコンなどをプレイすることもできる。ただし、パソコンと同じような快適な動作環境が手に入るわけではなく、同じことが安価なパソコンで、より快適に実行できることを考えると、普通のデスクトップマシンでプレイしたほうがいいように思える。このテクニックは、快適かどうかではなく「できる」ということがユーザーには重要なのだろう。

▶PS3でエミュレータを起動する手段

さまざまなディストリビューションが対応している

PS3にLinuxをインストールして起動すると、見慣れたペンギンのロゴが登場する

起動するときはPS3のクロスメディアバーから「優先起動システム」→「他のシステム」と選択すればOK

Linux上で起動しているエミュレータ上でレトロゲームが起動。とはいえ、やっていることはWindowsのパソコンと変わりないのだが……

ウブントゥだけじゃもの足りない……というあなたに、バージョンアップしたばかりの最新ディストリを一挙公開!

3Dデスクトップを簡単に使いこなせるXDLE環境 Dreamlinux 3.5

MacさながらのDockも便利な、美しい外観をもつディストリビューションだ。もちろん動作も快適だぞ!

Mac風の美しいデザインで動作も極めて軽快!

Dreamlinuxは、Debianをベースにしたブラジル生まれのディストリビューションだ。まるでMacintoshのような美しいデザインのデスクトップで、以前から人気を博していた。バージョンが3.5となって、従来以上に使いやすさが向上している。

今回は、「ライブCDの部屋」の尽力により、すぐに日本語環境で利用できるカスタマイズ版を紹介する。今すぐイメージファイルをダウンロードしてからCD-Rに書き込み、LiveCDとして起動してみよう。

CDイメージをダウンロード

Index of /livecd/DreamLinux

Name	Last modified	Size	Description
Parent Directory		-	
DL3.1_080405DE_ja.iso	22-Apr-2008 22:23	686M	
DL3.1_080405DE_ja.iso.md5	22-Apr-2008 22:23	56	
DL3.1_080405DE_ja.iso.torrent	22-Apr-2008 22:36	54K	
DL3.5_20092802-ja.iso	20-Mar-2009 15:39	653M	
DL3.5_20092802-ja.iso.md5	20-Mar-2009 15:39	56	
DL3.5_20092802-ja.iso.torrent	20-Mar-2009 15:39	26K	
DL_2.2_061220MME_0404-ja.iso	04-Apr-2007 23:46	696M	
DL_2.2_061220MME_0404-ja.iso.md5	04-Apr-2007 17:41	32	
DL_2.2_061220MME_0404-ja.iso.torrent	04-Apr-2007 17:45	55K	
DL_2.2_070701MMGL_ja.iso	04-Jul-2007 04:57	698M	
DL_2.2_070701MMGL_ja.iso.md5	03-Jul-2007 20:13	32	

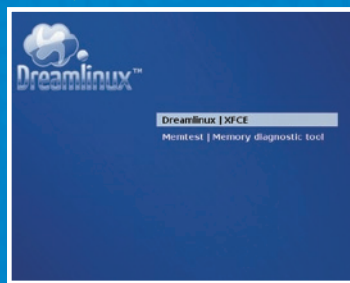
日本語版イメージは「ライブCDの部屋」(http://simosnet.com/livecdroom/)で配布されている。更新日をチェックし、最新のISOファイルをダウンロードする

●動作チェック1>> まずはCD起動でちゃんと動作するかチェック!

Dream linux 3.5

自分のパソコンで動作するかLiveCD環境でチェックしよう

新しいディストリビューションを試す前には、まずLiveCDで起動し、ハードウェアがすべて認識されているか(ドライバが正しく組み込まれているか)などを事前にチェックしておこう。あなたのパソコンでちゃんと使えることが確認できてから、ハードディスクにインストールして使うのが基本なのだ。

1 LiveCDを作成してから起動してみる

パソコンをライブCDから起動しよう。起動画面が表示されるので[Dreamlinux XFCE]を選択

2 Dreamlinuxのデスクトップが表示されれば起動成功

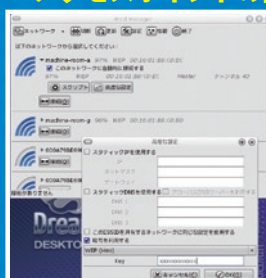
自動的にデスクトップが表示される。正式にインストールする前にまずは動作チェックを行おう

●動作チェック2>> ネットワーク環境が正しく使えるかチェック!

Dream linux 3.5

無線LANを使用する場合はドライバが正しく動作するかチェック

有線LANによる接続の場合、回線に正しくケーブルで接続されていれば、ほとんどの機種で問題なくネットワークに接続できるだろう。このDreamlinux3.5では、以前にも増して無線LANのドライバ対応が進んでおり、多くの機種ですぐに利用できるようになっている。なお、無線LANがうまく接続できない場合は、Windows用ドライバを読み込んで利用することも可能だ。

1 無線LANの場合はアクセスポイントの設定が必要

パネル内のネットワークアイコンをクリックすると、無線LANの設定画面が現れる。接続したいアクセスポイント名をクリックして設定を行おう。WEP接続の場合は「高度な設定」からキーを入力

2 無線LANに接続できない場合

Windows用の無線LANドライバを入手できるなら、Dockから「DPC-Control Panel」を起動。「ハードウェア設定」の「ワイヤレスドライバー」で、入手したドライバを読み込む

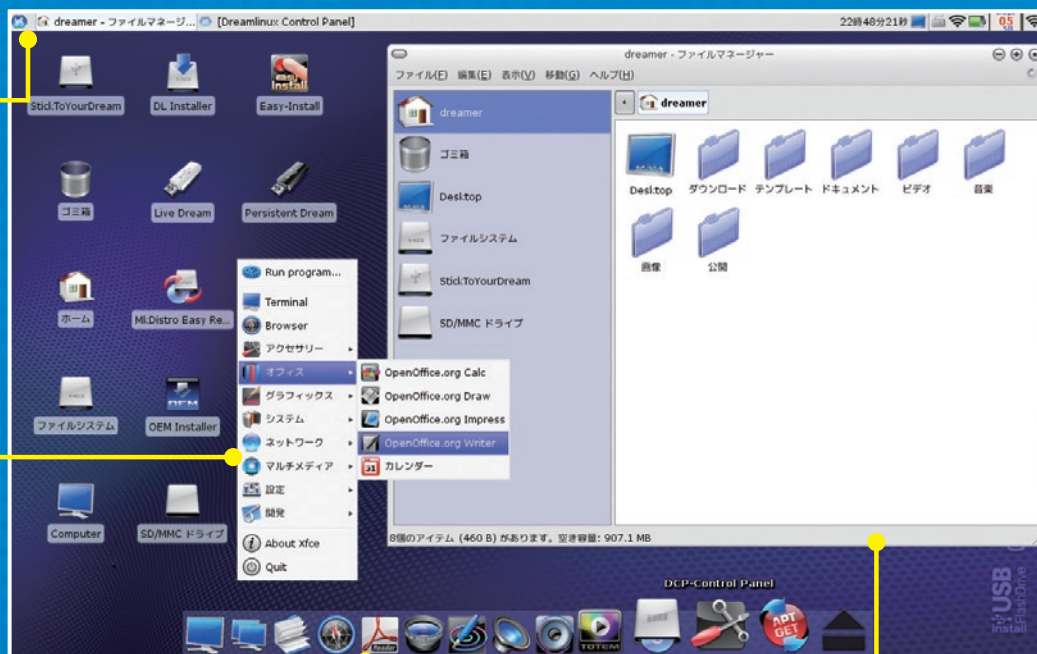
●デスクトップ>> Dreamlinuxの画面構成を理解すべし！

Dream linux 3.5

パネル

Windowsのタスクバーと同様の機能をもつ。現在開いているウィンドウやアプリケーションが表示されるほか、左端のボタンから多彩なアプリや設定ツールを実行することが可能。ほかのディストリに見られるような「仮想デスクトップ」機能は付いていない

メニュー

Dreamlinuxのデスクトップ上で右クリックすると、パネル左端のボタンを押したときと同じように、アプリケーションや設定を実行するためのメニューが表示される。あらゆる作業がこのメニューから行えるため、操作に迷わなくて良いかも

AWN Dock

Mac OS XのようなDockランチャー「AWN（Avant Window Manager）Dock」も、Dreamlinuxには搭載されている。よく使うアプリがあらかじめ登録されており、ワンクリックで起動することができる

ファイルマネージャ「Thunar」

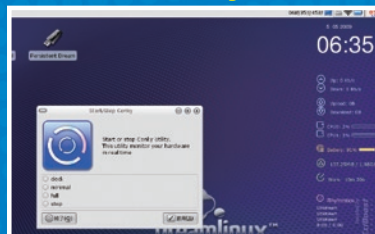
XFCEデスクトップで採用されているのは、軽快さが魅力のThunarだ。Gnomeの「Nautilus」に比べるとシンプルに見えるが、ファイル管理に必要な機能は完備。わざわざUbuntuにこれを導入するユーザーもいるほど

●アプリケーション>> Dreamlinuxにはこんなアプリが組み込まれている！

Dream linux 3.5

あらかじめ導入されたアプリは多くないがシステム系とマルチメディア系は充実

Dreamlinuxは他のdebian系ディストリビューションと同様、aptによるパッケージ管理システムを搭載している。端末を開いて「apt-get install パッケージ名」でダウンロード＆インストールが行えるほか、Synapticによるアプリケーション追加も可能。その際には、依存関係にあるパッケージも行われるので安心だ。なお、ボタンひとつでアプリを追加できる「Easy Install」については、63ページで解説する。

アクセサリー>>Conky

システム情報を表示する「Conky」が入っている。普通なら自分で設定ファイルを記述せねばならないが、あらかじめ3種類用意されてすぐに使える

システム>>DCP Control Panel

システムの様々な設定変更のツールが集められているコントロールパネル。メインメニューの「システム」メニューとあわせ、各種設定が行える

Dreamlinux 3.5収録の主なアプリケーション

■アクセサリー
- Conky …… システムモニタ
- HJSplitLX …… ファイル分割・結合

■オフィス
- OpenOffice.org 2.4.1 …… オフィス統合スイート

■グラフィックス
- CHeese …… WebCam操作ツール
- GIMP …… フォトレタッチソフト
- gThumb …… 画像ビューワ
- Inkscape …… イラスト作成ツール
- XSane …… スキャナ管理ツール

■システム
- DCP-Control Panel …… 設定変更ツール
- Easy-Install …… インストール管理
- Live Dream …… LiveUSB作成ツール
- OEM Installer …… HDDへのインストール用
- Persistent Dream …… 保存可能なLiveUSBの作成

■ネットワーク
- Check-Gmail …… Webメールチェッカー
- Firefox …… Webブラウザ
- Pidgin …… インターネット・メッセンジャー
- Thunderbird …… メールクライアント

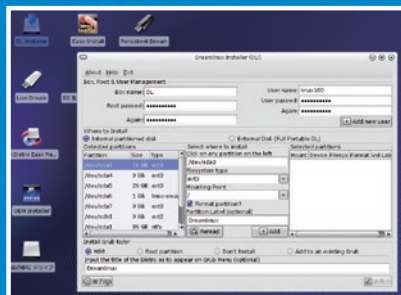
■マルチメディア
- AviDemux …… 動画編集ツール
- Brasero …… ディスク作成ツール
- Rhythmbox …… 音楽プレイヤー
- Sound Juicer …… CD取り込みツール

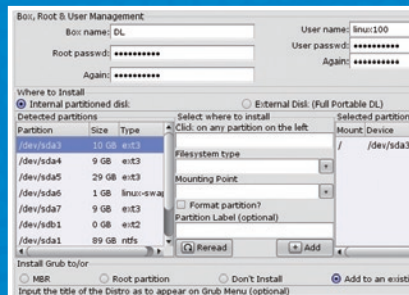
●インストール>> Dreamlinuxをハードディスクに導入する!

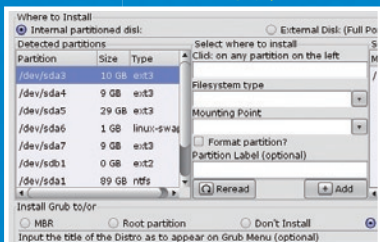
Dream linux 3.5

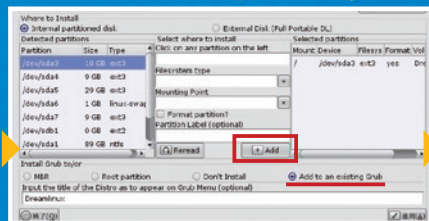
ユーザ設定も導入先の指定も同じ画面上で一括設定できる

Dreamlinuxをハードディスクへインストールするのは、とても簡単だ。LiveCD起動時にデスクトップに表示されるアイコン「DL Installer」をダブルクリックしよう。すると、インストール設定を行うためのウィンドウが画面に表示される。インストール先やパーティション設定など、すべての設定がこのウィンドウ上で行えるため、現在どんな設定で作業を進めているのか、ひとめで把握できるぞ。

1 「DL Installer」からインストーラを起動する

デスクトップにある「DL Installer」をダブルクリックして、Dreamlinuxのインストーラを起動する

2 管理者パスワードとユーザーアカウントを指定

画面左上部で、システム名の指定と管理者のパスワードを指定。右側にはユーザID・パスワードを入力

3 インストール先のパーティションを選択する

中段左部でインストール先のパーティションを指定。中央部でファイルシステム・タイプ(ext3がオススメ)を指定し、マウントポイントは「/」を指定。「Format partition?」にチェックを入れて初期化すれば確実

4 インストール先の確認とブートローダーの設定を行う

「Add」ボタンをクリックすると、右側にインストール先の情報が表示される。ここで、下部にある「Grub」の指定を行おう。Dreamlinuxをメインに使うならば「MBR」を選択。マルチブート環境にしたい場合は、「Add to an existing Grub」を選ぼう

5 インストール完了後Dreamlinuxを起動する

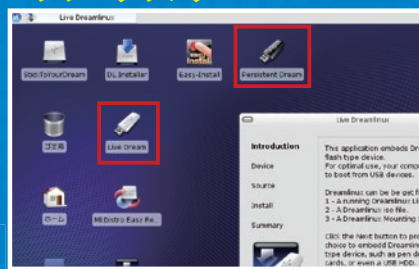
インストーラの「適用」ボタンを押すことで、インストール作業がスタートする。再起動後、ユーザ名とパスワードを入力して、Dreamlinuxを起動しよう

●LiveUSB>> 2種類のLiveUSBを使い分けることが可能!

Dream linux 3.5

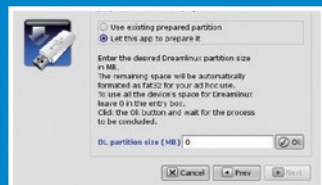
インストール用の「Live Dream」と書き換えOKの「Persistent Dream」

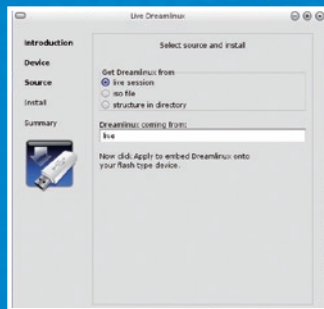
Dreamlinuxでは、インストール機能付きのライブUSB=「Live Dream」と、アプリケーションの追加やファイル保存が可能な「Persistent Dream」を簡単に作成できる。CD/DVDドライブのないネットブックへのインストールや、トラブル時のデータリカバリー用に便利だ。「Live Dream」、「Persistent Dream」共に同じ手順で作成できるので、用途に応じたものを選択しよう。

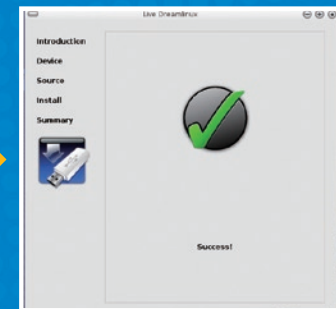
1 LiveUSB作成アイコンをダブルクリック

用途に応じてLiveかPersistentかを選んで、デスクトップ上にあるアイコンをダブルクリック

2 インストール先のUSBメモリを選択する

USBメモリを選択して「OK」ボタンを押す。続いて下の「Next」をクリック

3 インストール先のパーティションを指定

既存のパーティションを用いるなら「Use existing....」を、メモリを初期化して作成する場合には「Let this app...」を選択。下部の「DL partition size」では、Dreamlinuxに割り当てたいサイズをMB単位で記入する。容量全てを割り当てる場合は「0」のままでOK

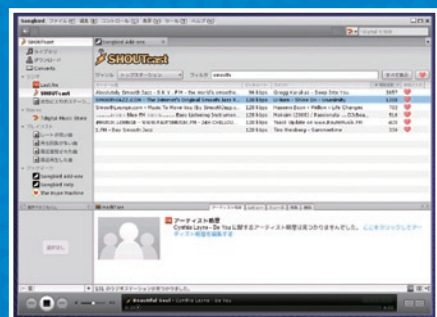
4 DreamLinuxのインストール元を選択

インストールするソースを選択する。ISOファイルからの作成にも対応しているが、「live session」が無難

5 インストール作業を開始

書き込みを開始すると、作業の進捗がパーセント表示される。「Success!」が出れば成功だ

●活用術：01>> アプリ追加が超簡単にできる「Easy Install」

Dream linux 3.5

主なアプリケーションを ボタンひとつで簡単インストール

デスクトップ上のアイコンから起動できる「Easy Install」は、魅力的なアプリケーションが簡単にインストールできるツールだ。メーカー製のドライバやコーデックなど、これを使えば、定番アプリの最新版や、ライセンス面でISOイメージに収録できないデータを、手軽にインストールすることができる。

iTunesライクな音楽管理ソフトとして人気のSongbirdなど、多彩なアプリケーションがクリックだけで導入可能

「Google Earth」「Picasa」「Google Desktop」のようなGoogle系アプリケーションのほかにも、BitTorrentクライアント「Azureus」や「Deluge」など、さまざまなアプリがワンクリックでインストールできるのだ

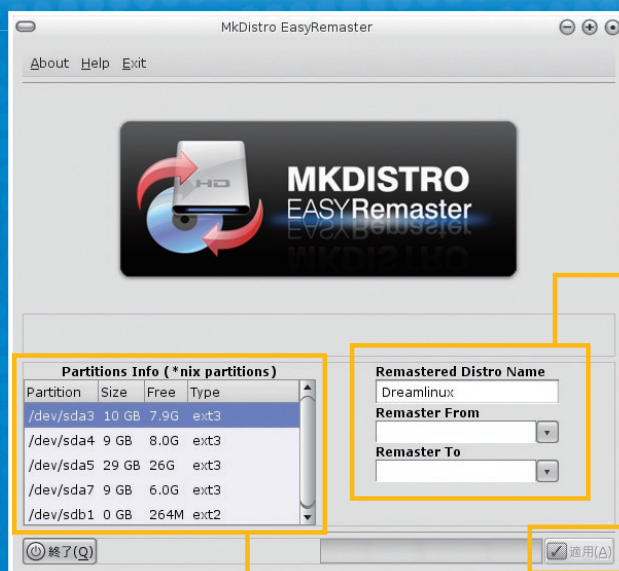
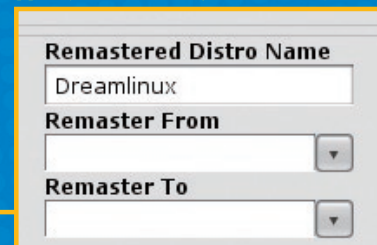
アプリを選ぶと、インストールするかどうかの確認ダイアログが表示される。「Apply」をクリックして作業開始

「Linux Software Installer」を追加導入すると、TuxSoftware.comにある豊富なソフトウェアから検索し、ダウンロードができるようになる

●活用術：02>> 自作ディストリを作れる「EASY Remaster」

Dream linux 3.5

カスタマイズ済みの LiveCDを作成できる

「MkDistro Easy Remaster」はその名の通り、設定などをカスタマイズした後のディストリビューションをISOファイルとしてパッケージ化できるツールだ。好きなアプリを詰め込んだり、言語環境を変更したりしたディストリをISO化してCD-RやDVD-Rに書き込めば、オリジナルのLiveCDを作ることが可能だ。なお、Dreamlinux自体をISO化したい場合は、別のLiveCDからこのツールを起動するのがオススメ。

保存元のパーティションと 保存先のディレクトリを指定

「Remaster From」で保存したいパーティションを選択。「Remaster To」でカスタマイズ済みISOファイルの保存先を指定すればOK

パーティション内容をチェック

Partitions Info (*nix partitions)

Partition	Size	Free	Type
/dev/sda3	10 GB	7.9G	ext3
/dev/sda4	9 GB	8.0G	ext3
/dev/sda5	29 GB	26G	ext3
/dev/sda7	9 GB	6.0G	ext3
/dev/sdb1	0 GB	264M	ext2

こちらは各パーティションの情報（サイズ・空き容量・フォーマット）を確認するためのもの。ここを見て、ISO化したいディストリの収められたパーティションがどれかを判別する

リマスター作業が完了すると、保存先の「ISO」フォルダ内に、カスタマイズ済みのディストリをまとめたISOファイルが作成される

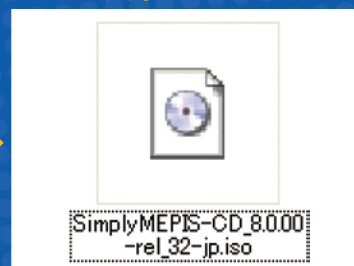
ユーザ視点で使いやすさを追求
安定性と拡張性に優れた逸品

SimplyMEPIS 8.0

KDEデスクトップを採用し、安定性の高さで知られるMEPISの1CDバージョンが、この「SimplyMEPIS」だ。アプリケーションも豊富で、初心者でも気軽に利用できるのだ！

質実剛健のKDE系ディストリ最新版

2003年に初リリースされたMEPISの最新バージョン。Debian最新版のlennyをベースとしており、ハードウェア自動認識能力の高さで定評がある。デスクトップマネージャにはKDE3.5を搭載。あえて最新版のKDE4.xを採用していないのは、開発者としてのこだわりらしい。ハードディスクにインストールして実際に使ってみると、操作面での煩わしさも感じられず、高い安定性を誇る。コバルト・ブルーを基調としたデスクトップのルック＆フィールも、非常に魅力的だ。

「ライブCDの部屋」から日本語版ISOイメージを入手

こちらもDreamLinuxと同様、「ライブCDの部屋」（http://simosnet.com/livecdroom/）で公開されている日本語版を使用。ISOイメージをダウンロードして利用しよう

●起動チェック>> まずLiveCDからの起動チェックをしてみよう

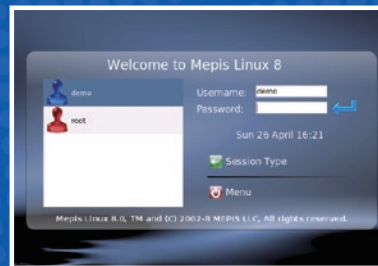
Simply MEPIS 8.0

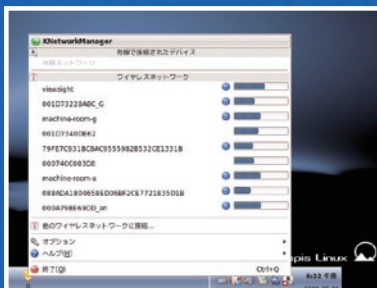
LiveCDでの起動確認とネットワーク環境の接続チェック

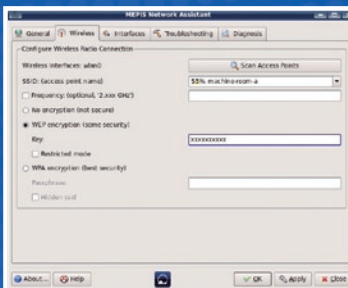
DreamLinuxのときと同様、SimplyMepisでもまず、LiveCDから起動してみて、ディストリビューションやドライバが正しく動作するか、チェックしてみることをオススメする。Windowsと違い、事前にLiveCDから動作チェックができるのも、Linuxの大きな魅力と言えるだろう。また、無線LAN関係のチェックもここでやっておくと良い。

1 起動画面で「Default」を選択

LiveCDによる起動画面。一番上の「Default」を選択した状態で、Enterキーを押そう

2 ユーザ名「demo」でパスワード「demo」と入力

ログイン画面が現れる。ユーザ名「demo」ではパスワードも「demo」と入力し、ログインを行う

3 無線LANのアクセスポイントを選択

無線LAN機器が認識されれば、付近の電波状況が表示される。接続したいアクセスポイントを選択しよう

4 アクセスポイントの接続設定を行う

接続キーやパスワードを入力。「Troubleshooting」タブから、Windows用ドライバを用いた接続も可能だ

5 ネットワークに接続できるか確認

設定したパスワードを入力して、ネットに接続する

●デスクトップ>> KDEデスクトップには多彩な機能が満載!

デスクトップでのメニュー

デスクトップの背景部分を右クリックすると、ファイル・フォルダの新規作成やデスクトップ表示の設定などが行える。Windowsの右クリックメニューに近いが、「コマンドを実行」という項目もあるのはLinuxらしい

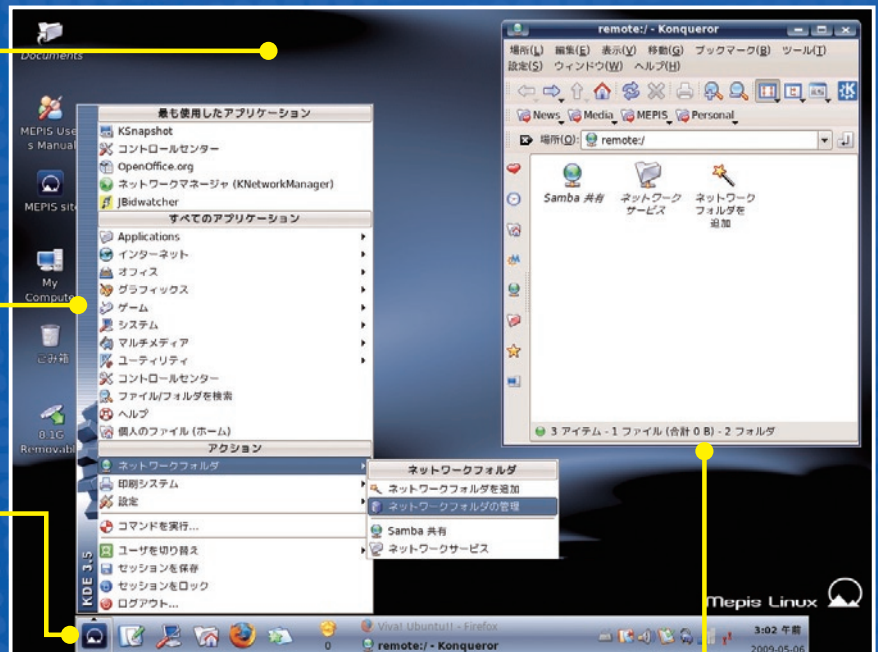
Kメニュー

パネル左端のロゴをクリックすると、アプリケーションや設定ツールの起動用メニューが表示される。アプリケーションのジャンルごとにサブメニューが用意されているので、階層をたどってお目当てのアプリを起動しよう

KDEパネル

Dreamlinuxのシンプルなパネルと異なり、Simply MEPISのパネルにはブラウザやhomeフォルダへのリンクアイコンや、音量調整・クリップボードなどの常駐ツールアイコンなどが並んでいる

ファイルマネージャ

SimplyMEPISのウィンドウは、Webブラウザとしても使われる「Konqueror」によって管理されている。Webアクセスとデスクトップの操作が同じ環境で行えるという点で、Windowsでのフォルダ操作に似ているかも

●アプリケーション>> Ubuntuにはないアプリも多数収録!

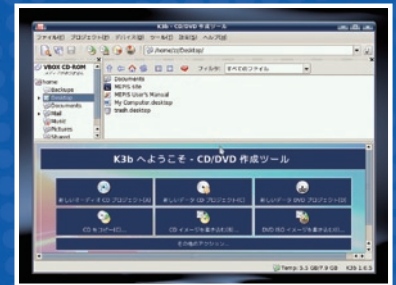
Simply
MEPIS 8.0

KDE系アプリケーションがSynapticで簡単に追加できる!

SimplyMEPISでのアプリケーション・パッケージ管理システムには、Debian系ではお馴染みの「apt」を採用。Debian LennyとSimplyMEPISのリポジトリが使えるので、豊富なアプリケーションやツールの導入が可能だ。Ubuntuなどでもおなじみのsynapticパッケージマネージャにより、アプリケーションの検索から導入に至るまでの作業を簡単に行える。

インターネット>>Konqueror

Webブラウザでありながら、KDEデスクトップのファイル管理システムとしても使われている

マルチメディア>>K3b

KDE用のCD/DVDライティングソフト。書き込みだけでなく、リッピングも行える

SimplyMepis 8.0の主なアプリケーション

■インターネット
- Firefox …… Webブラウザ
- Konqueror …… Webブラウザ
- KMail …… メールクライアント
- MEPIS Network Assistant …… ネットワーク設定
- Guarddog …… ファイアウォール

■オフィス
- OpenOffice.org 3.0
- KAddressBook …… アドレスマネージャ
- KOrganizer …… 個人向けスケジューラ

■グラフィックス
- KGhostView …… PS/PDFビューワ
- Kooka …… スキャン&OCR
- digiKam …… フォト管理ツール
- showFoto …… 画像ビューワ

■ゲーム
- KMahjongg …… 麻雀牌パズル
- KBattleship …… 戦艦ゲーム

■システム
- Partition Editor …… パーティション管理
- Keep …… バックアップツール

■マルチメディア
- K3b …… CD/DVD作成
- Amarok …… オーディオプレイヤー
- Kino …… 動画編集ツール

■ユーティリティ
- KNotes …… 付箋ツール
- KFontView …… フォントビューワ
- KCharSelect …… 文字の選択ツール

●インストール>> SimplyMEPISをハードディスクに導入!

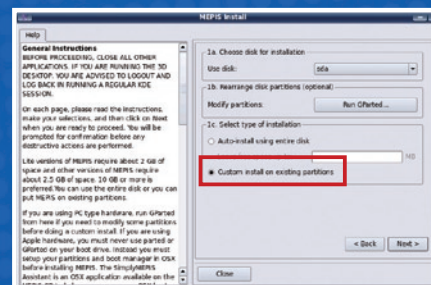
Simply MEPIS 8.0

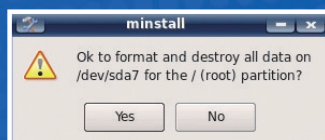
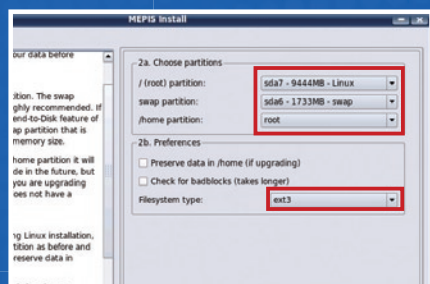
インストール時にはブートローダーの設定に注意!

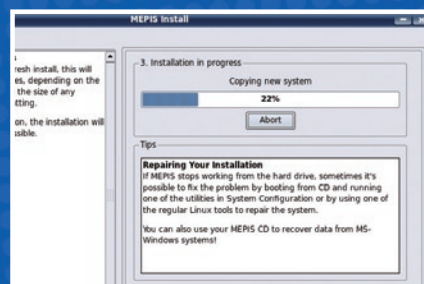
インストール画面までは日本語化されていないのだが、簡単でわかりやすいステップでインストールが行える。ただし、途中でパーティション選択やブートローダーの保存場所指定など、注意が必要な作業もあるので、以下の解説に従って慎重にインストールを進めてほしい。

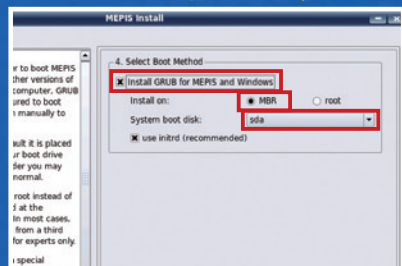
1 root権限でインストール開始

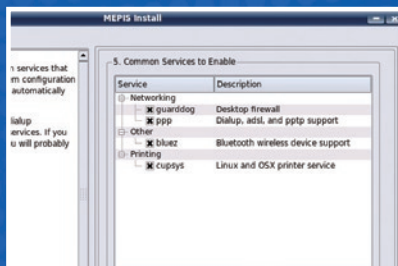
デスクトップ上の「MIPIS Install」アイコンをダブルクリックして、インストール作業をスタートする。root(管理者権限)のパスワードを求められるので、「root」と入力して「OK」ボタンをクリックしよう

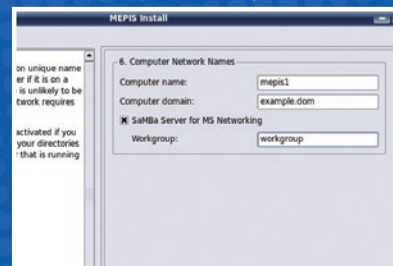
2 ライセンス項目への同意

利用にあたっての注意事項が表示されるので、内容に同意するため「I agree to...」にチェックを入れ、「Next」ボタンをクリックして作業を進める

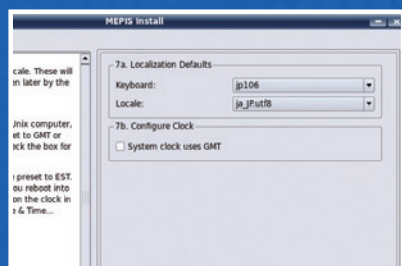
3 インストール先パーティションの設定

カスタムインストールの場合、インストール先のパーティションやswap領域を指定。すでに他のLinuxが導入済みなら、「/home」の位置も他のパーティションを指定できるが、通常は「root」を選ぼう。ファイルシステムは「ext3」がオススメ

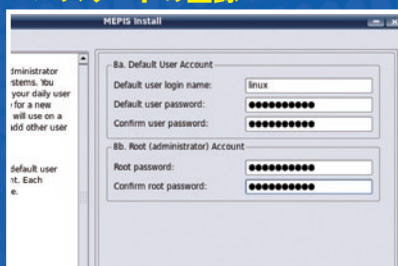
4 作業の進捗状況をチェック

インストール進行状況がグラフで表示される。作業は数分で終了

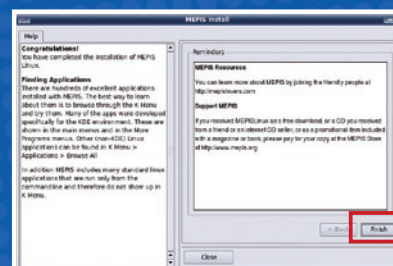
5 ブートローダーのインストール設定を行う

GRUBのインストール。Windowsなどとのデュアルブート環境を構築する場合、「Install GRUB for...」にチェックをしておこう。このとき、システム起動ディスクを指定しておく

6 各種サービスの登録

各種サービスを有効にするかどうかの設定。上からファイアウォール、ダイヤルアップ接続、ブルートゥース、印刷サービスが用意されているが、不要であればチェックを外して次へ進む

7 ローカルネットワーク用のドメイン設定を行う

コンピュータ名を入力する。ネットワークドメインに参加するのであればドメイン名を、Windowsネットワークに接続するのであればワークグループ名を入力しておこう

8 キーボードレイアウトの設定

日本語キーボードの場合には、キーボードレイアウトとして「jp106」を、Localeは「ja_JP.utf8」を選択。「Configure Clock」にはチェックは入れない方がいいだろう

9 ユーザアカウントとパスワードの登録

最後に、ユーザアカウントの設定と管理者のパスワードの設定を行う

10 インストール完了

最後に「Finish」をクリックして再起動。先に設定したユーザアカウントとパスワードでログインしよう

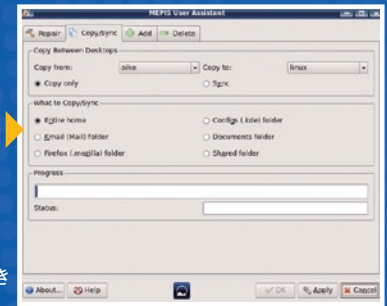
●活用術：01>> 豊富な設定機能もMEPISの大きな魅力!

Simply MEPIS 8.0

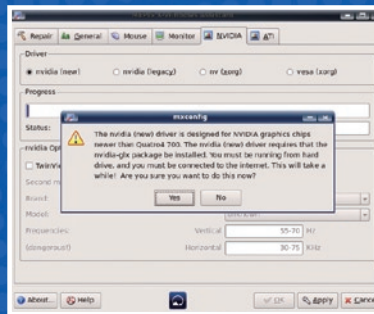
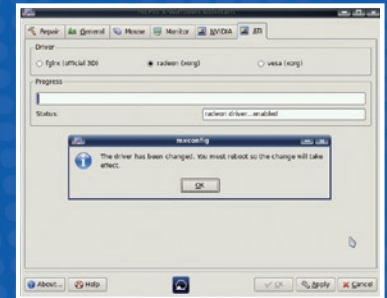
アカウントや個人データを管理する「MEPIS User Assistant」

SimplyMEPISには、「MEPIS Network Assistant」「MEPIS System Assistant」「MEPIS User Assistant」「MEPIS X-Window Assistant」という4種類のシステム設定ツールが用意されている。なかでもUserAssistantでは、個人作成のデータをバックアップしたり、ユーザアカウントを追加・削除したりといった処理が可能だ。

システム>MEPISから、MEPIS User Assistantを起動できる。システムのバックアップ設定もここから行える

MEPIS User Assistant

グラフィックドライバを簡単設定!「MEPIS X-Windows Assistant」

Kメニューのシステム>MEPIS>MEPIS X-Windows Assistantをクリックすると、画面表示関連の設定を行える「X-Windows Assistant」が起動する。ここではディスプレイの指定やマウスの動作設定などのほか、nVIDIAやATIのグラフィック環境を使っているユーザーが、簡単にグラフィックドライバを組み込むことも可能。こうした作業が、設定ファイルを編集しなくても行えるのだ。

MEPIS X-Window Assistant

nVIDIA系グラフィックドライバの選択画面。詳細な型番を選ぶのではなく、大まかに4種類のなかから選択

ATI系の場合は選択肢が3種類となる。お使いのパソコン環境に合ったものを選ぼう

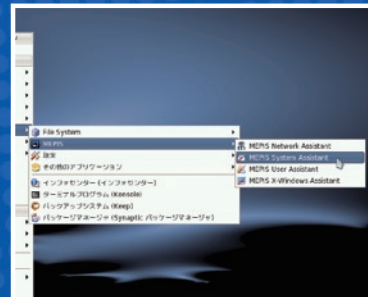
●活用術：02>> USBメモリにSimplyMEPISを導入する!

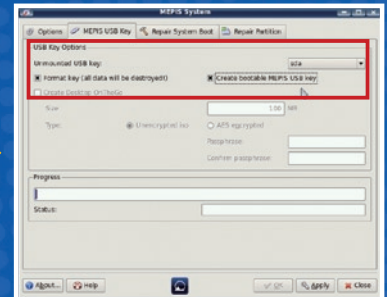
Simply MEPIS 8.0

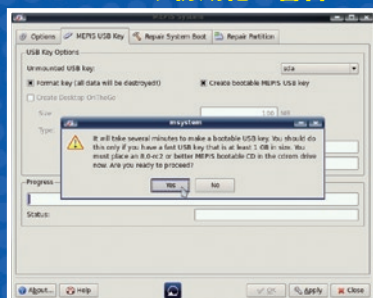
SimplyMEPISのISOイメージからLiveUSBを作成しよう

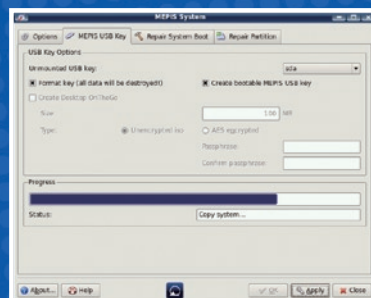
「MEPIS System Assistant」から「MEPIS USB Key」機能を実行すると、USBメモリによるライブ起動ディスクを作成できるのだ。なお、MEPISをUSBメモリに導入するためには、SimplyMEPISのCD-ROMかISOイメージファイルが必要になるので、あらかじめ用意しておこう。また、OSのインストールには1GB以上の空き容量をもつUSBメモリが必要。

ちなみに、現状のデスクトップ環境のクローン（非表示のISOファイル）をUSBメモリ内にバックアップすることもできる。

1 System Assistantから USB Keyを起動

USBメモリへのインストール機能は単独のアプリではなく、MEPIS System Assistantの一機能として提供される。Kメニューから開こう

2 マウントしていない USBメモリを指定する

「USB Key」タブを開いて、インストール先のUSBメモリを選択。「Create bootable MEPIS USB Key」にチェックを入れよう

3 インストール前に USBメモリ初期化の警告

フォーマットによりUSBメモリの内容が消えてしまうことと、導入には1GB以上のUSBメモリが必要だということが、ダイアログで表示される

4 USBメモリへのインストール開始

Progressバーが動き出し、インストールが開始される。バーが何度も右へと延びていくが、作業完了のダイアログが表示されればOKだ

USBメモリからSimplyMEPISを起動。起動画面こそ英語表示になってしまうが、ちゃんと日本語で利用可能

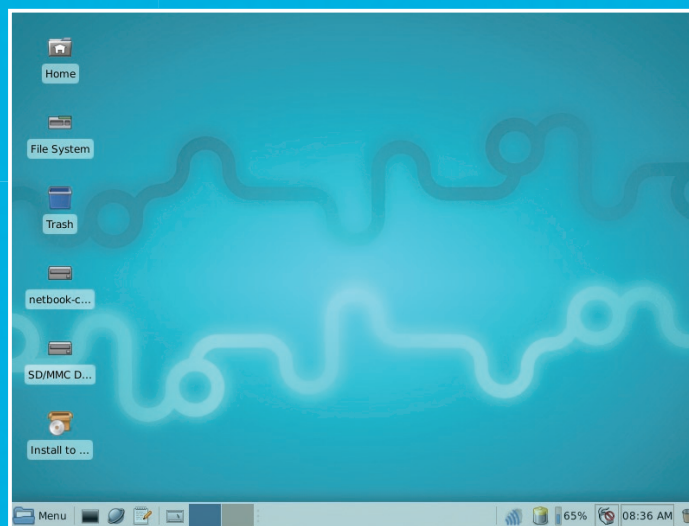
日々進化中! ネットブック&携帯端末向けの超軽量級OS

Moblin V2 Core Alpha

UMPCをはじめとするモバイル機器上で軽快に動作するよう作られたディストリが、この「Moblin」だ。軽くてもなかなか使えるぞ!

完全モバイル仕様の最新ディストリ

Moblinは、ネットブックや車載インフォテインメント・システムなど、次世代のモバイルデバイスをターゲットとして、Linuxベースの軽量OSとユーザーインタフェース環境を開発するためのプロジェクトだ。当初はインテル主導によりAtomプロセッサの普及のために立ち上げられたのだが、この4月に非営利団体のLinux Foundationにプロジェクトが移管され、オープンソースプロジェクトとして新たな出発を切っている。

当初はUbuntuをベースに「Moblin V1」として開発されてきたが、「V2」からはパッケージ管理をRPMに変更。デスクトップ・マネージャにはXubuntuやDreamlinuxにも使われているXfceが搭載され、独自のディストリビューションとして今もなお進化を続けているのだ。

Imgイメージファイルと USBメモリが必要

他のディストリと違ってCDから起動するのではなく、まずUSBメモリにインストールしてから使うようになっている。右ページの解説を読んで、LiveUSBを作ってみよう

●LiveUSB>> Moblin 2のライブUSBメモリを作成しよう!

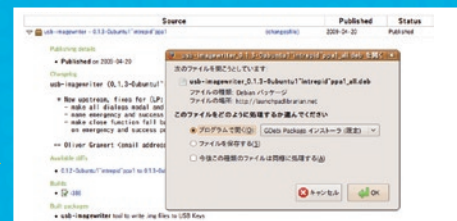
Moblin V2 Core Alpha

まだまだ実験版のOSだがUMPCでの起動実績は多い

現在リリース中のバージョンは、まだβ版にも満たないMoblin V2 Core Alpha版。現状ではCPUにAtomまたはCore 2 CPUと、インテルの統合グラフィックス(915/945/965)を搭載したPCが必要。EeePCやAspire oneなど多くのネットブックで動作確認がされているが、そこで使うにはUSBメモリへのインストールが必要だ。

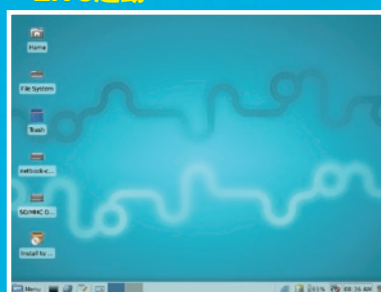
1 Moblin Live Images(ネットブック用)を入手

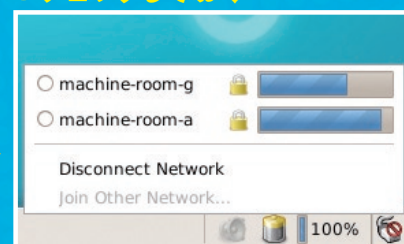
公式サイトの日本語版(http://www.moblin.jp/)にある「ダウンロード」ページから、イメージファイルを入手

2 image writerの入手

配布サイト(https://launchpad.net/~ogra/+archive/ppa)から最新版をダウンロード。「アプリケーション」>「アクセサリ」からimage writerを起動する。必ずUSBメモリをPCに挿入した状態で起動しよう

3 イメージファイルをUSBメモリに書き込む

「Write Image」で、あらかじめ入手した「Moblin Live Images」の置き場所を指定。右側は書き込み先のUSBメモリを指定する。「Write to device」をクリックして書き込み開始

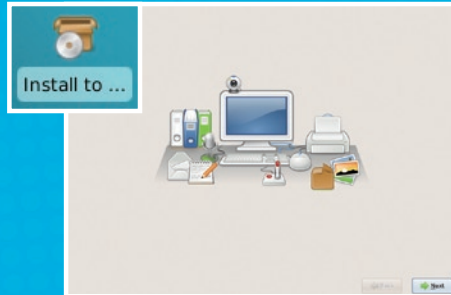
4 作成したUSBメモリからLive起動

USBメモリを差してPCを起動。ブートセレクタで「Boot」を選択すると、Moblinが起動する

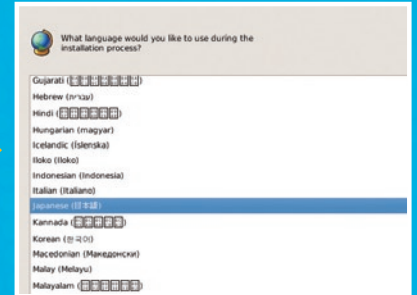
5 無線LANへの接続状況もチェックしておく

日時表示の左側にあるアイコンを左クリックすると無線LANのアクセスポイントがリスト表示される。接続したいポイントを選び、キーを入力しよう。接続されれば、電波の強度を表すアイコンに変わる

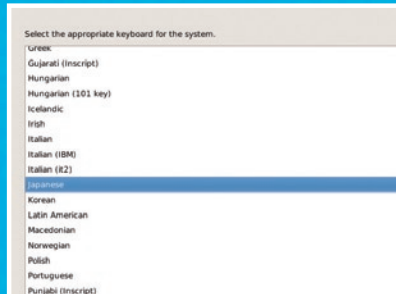
Moblinのインストールは USBメモリから行う

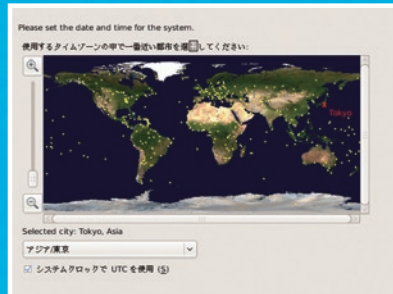
一般的なLinuxディストリビューションのようにLiveCDからインストールするのではなく、このMoblinはLiveUSBメモリを作成し、そこからハードディスクへインストールするという仕様になっている。

なお、インストーラ上に文字化けがめだつのは、最小限の漢字フォントで表示されているため。あとで正しく表示させよう。

1 インストーラアイコンを ダブルクリックして作業開始

「Install to ...」アイコンをダブルクリックすると、ハードディスクへのインストール画面が現れる。ここで「Next」を押す

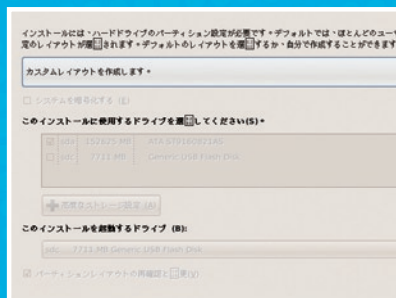
2 ディストリビューションの 表示言語を選択する

日本語環境で使用する場合には、リストをスクロールして「日本語」を選択する

3 キーボードレイアウトでも 「Japanese」を選択

日本語キーボードや英語キーボードなど、利用するキーボードの形式に合わせて選択する

4 タイムゾーンの選択

PCを使用する地域を地図上でクリック、またはリストから選択。国内であればデフォルトのままでOK

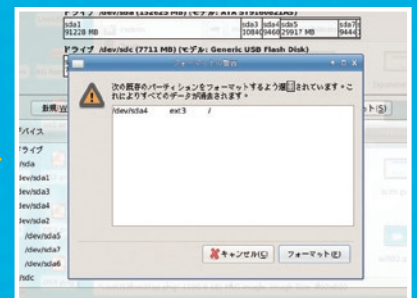
5 インストール先の ハードディスクを選択する

ハードディスクをそのまま選択すると、既存のOSが全て消えてしまうので注意!

6 「sda」ドライブへの インストールで注意すべき点

「sda」の一部のパーティションにインストールする場合、「カスタムレイアウトを作成します。」を選択

7 インストール先の パーティション設定を行う

パーティションを選択し、「編集」をクリック。現れた画面で、「マウントポイント」に「/」を選択

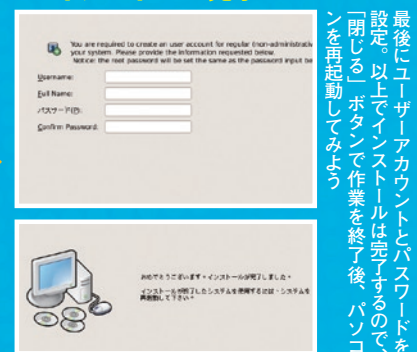
8 パーティション編集の完了

好みのファイルシステム(初期設定のext3で構わない)を選択。警告画面で「フォーマット」をクリック

9 ブートローダーのインストール

ブートローダーのインストール先を選択。マルチブートで複数のOSをインストールしている場合は「追加」・「編集」ボタンを用いて、起動させたいOSをリストに追加。「デフォルト」にチェックを入れれば、自動起動するOSを指定できるのだ

10 Liveイメージの ハードディスクへの転送

ここで、実際にイメージファイルからハードディスクへとインストールファイルが転送される

11 ユーザー設定のあとで インストール完了

最後にユーザーアカウントとパスワードを設定。以上でインストールは完了するので、「閉じる」ボタンで作業を終了後、パソコンを再起動してみよう

●日本語設定>>

Moblinの日本語表示環境を整えよう

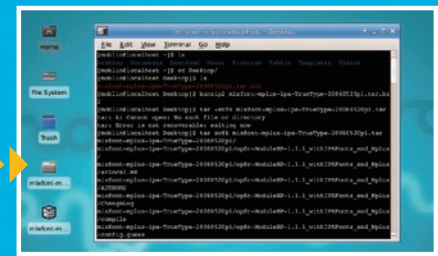
Moblin V2 Core Alpha

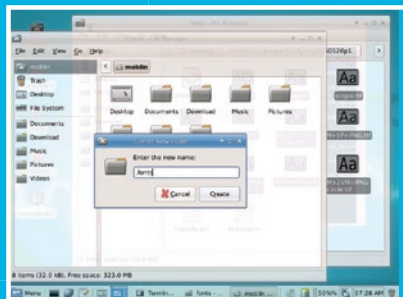
フリーの日本語フォントを導入し漢字の文字化けを解消する

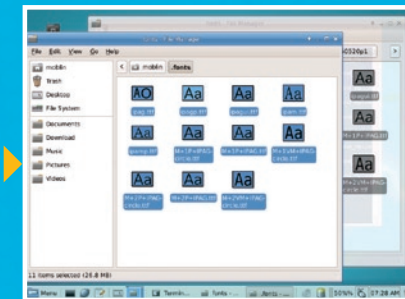
MoblinのメニューやWebページは、表示の一部が文字化けしてしまう。これは、システムフォントとして簡易な漢字しか用意されていないためだ。そこで、綺麗な表示で定評のある無償のフォント「M+ IPAフォント」を導入してみよう。

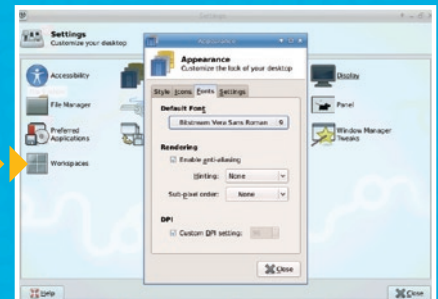
1 まずは日本語フォントをダウンロード

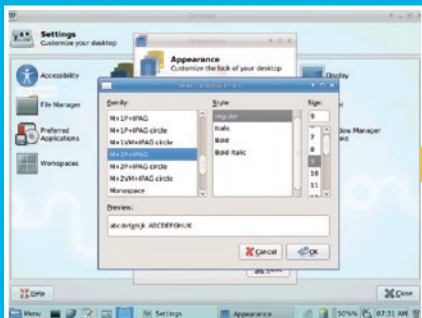
「M+IPAフォントの合成フォント」のホームページ(http://mix-mplus-ipa.sourceforge.jp/）からフォントを入手

2 コマンド操作によりダウンロードファイルを解凍

ターミナルを起動し、ダウンロードファイルのあるディレクトリにcdコマンドで移動。コマンド「bunzip2 mixfont-mplus-ipa-TrueType-20060520p1.tar.bz2」と入力。続いて、「tar xvf mixfont-mplus-ipa-TrueType-20060520p1.tar」で、ファイルを解凍する

3 非表示設定でフォント用フォルダを作成

homeディレクトリで「View」メニューを開き、「Show Hidden Files」にチェック。「.fonts」という名前でフォルダを新規作成する

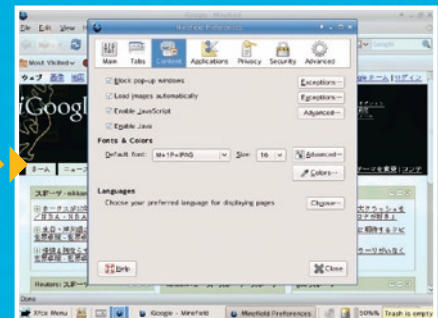
4 ダウンロードしたフォントを「.fonts」フォルダにコピー

ダウンロードしたフォントファイルを解凍すると、フォルダ内の「font」フォルダにフォントが入っているので、これを「.fonts」内にコピーする

5 表示用フォント設定画面からフォントファイルを探す

Xfce Menu>Settings>Xfce4 Settings Managerから「Appearance」を開き、「Fonts」タブを選ぶ

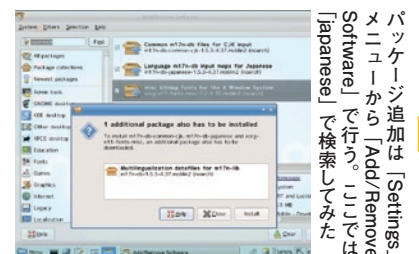
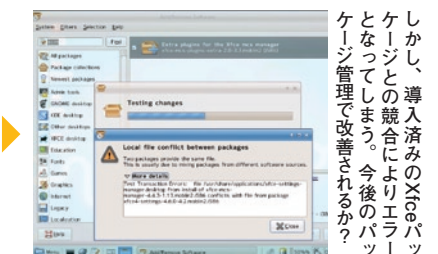
6 先ほどインストールしたフォントを指定

「Default Font」でフォント一覧を表示させる。新しくインストールしたフォントを選択して「Close」をクリック

7 Firefoxの表示フォントも日本語対応のものに変更可能

Firefoxの表示フォントも変更したい場合は、「Edit」メニューから「Preferenceses」を開こう

8 Firefoxのフォント設定を変更してみよう

「Content」タブから、「Default font」および「Advanced」を選択し、フォントの設定を変更

日本語入力環境はまだ未整備

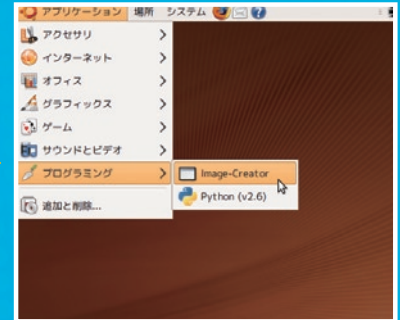
Moblinバージョン2のリポジトリ（パッケージを格納しているサーバ）のリストを見てみると、ようやく開発関連のパッケージで準備が始まった段階で、一般的なソフトウェアはまだ導入できる状態にはなっていない。各国語への対応もこれからのようだ。バージョン2での日本語入力環境についても、対応状況はまだ不完全。準備が整うまで、しばらく待つべきだろう。

パッケージ追加は「Settings」メニューから「Add/Remove Software」で行う。ここでは「japanese」で検索してみた

しかし、導入済みのXfceパッケージとの競合によりエラーとなってしまう。今後のパッケージ管理で改善されるか？

●カスタマイズ>> 独自のMoblinが作れる「Moblin Image Creator」 Moblin V2 Core Alpha

Moblinを自由自在にカスタマイズ あなただけのISOイメージを作ろう

　Moblinバージョン2では、残念ながら（5月20日現在）日本語入力環境が整備されていないが、バージョン1に対応するアプリケーション「Moblin Image Creator」を用いれば、日本語環境を自分で織り込んだり、好みのソフトウェアを追加して、オリジナルのインストール用ISOイメージを作成できる。バージョン2対応の「Moblin Image Creator 2」もコマンド版が登場し、GUI版も準備中となっている。ここでは、各種パッケージも充実している「バージョン1」の環境で説明しよう。

カスタマイズツールの入手

公式ページ（http://moblin.org/downloads/project/）から「Moblin Image Creator」を入手

導入後、「アプリケーション」＞「プログラミング」でパスワードを入力。管理者権限で起動する

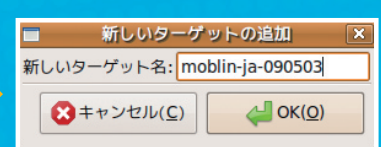
1 「プロジェクト」を追加する

1 新規プロジェクトを追加する

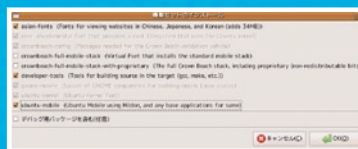
左上の「プロジェクトの追加」をクリックしよう

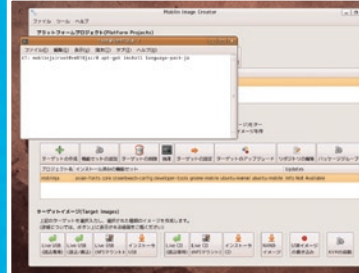
2 プロジェクト名とプラットフォームを指定

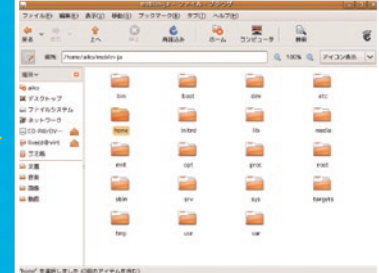
「プラットフォーム」には"menlow lpia ubuntu hardy"を選択

3 追加したターゲットに新しい名前を登録

「ターゲットを追加します」をクリックし、ここで入力する名称が、これから作成する「ホスト名」となる。英数字で好みの名称を指定

2 ターゲットの作成（＝カスタマイズ作業）

1 機能セットの追加と関連パッケージの収集

「機能セットの追加」をクリック。画面で「asian-fonts」、「developer-tools」、「ubuntu mobile」を選ぶといいだろう。その後、関連パッケージのダウンロードが行われる

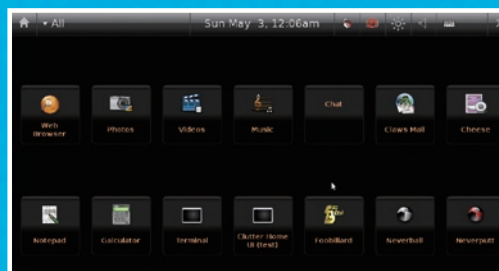
2 中段のターゲット欄「端末」で日本語入力環境を追加

「apt-get install language-pack-ja」で日本語環境を追加すればOK

3 イメージ化に必要なデータが1カ所に集められる

プロジェクト用ディレクトリに、編集済みMoblinのファイルが収集

3 ターゲットイメージの作成

1 ターゲットイメージの作成

イメージ名を指定して、拡張子「img」のファイルをプロジェクトフォルダの「targets」→「image」ディレクトリ内に作成

2 動作確認で問題ないかチェックしてオリジナルのLiveUSBを作成

動作に問題なければ、USBメモリを装着し、「USBイメージの書き込み」ボタンをクリックしてIMGファイルを指定

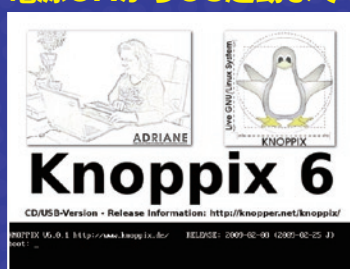
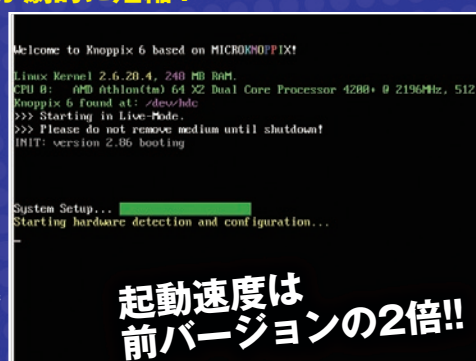
最新機能を率先して搭載する
ドイツ生まれの定番ディストリ最新版

KNOPPIX 6.0.1

壊れたハードディスクからのデータリカバリーなどでよく使われる、定番ディストリビューション「KNOPPIX」。その最新バージョンは、起動の高速化と軽量化により、いっそう使いやすさがUPしている

ライブCDの元祖が劇的に高速化！

1CDLinuxの元祖として有名なKNOPPIXもDebianベース。バージョン6となり、カーネル2.6.28を搭載した事でFastBootに対応した。起動プロセス（特にハードウェアの認識プロセス）を並列化して最適化を図ることで、起動時間の短縮を実現したのだ。さらに、デスクトップマネージャもKDEからLXDEに変更されたことで、より軽量化されている。加えて、「ADRIANE」という新しい起動オプションも用意。表示されているテキストを読み上げるという新機能が加わった。

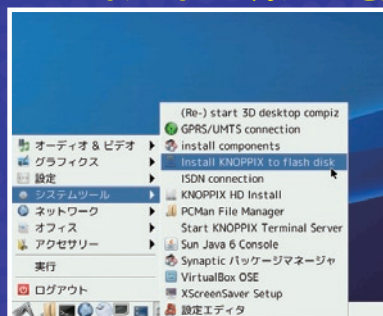
電源ONからOS起動までの時間が劇的に短縮！

LiveCDは、Enterキーですぐに起動プロセスに入る。起動プロセスは、従来のものよりも高速化が図られている

●LiveUSB>> USBメモリからも高速起動できる！

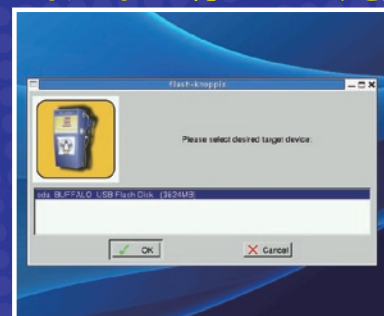
KNOPPIX 6.0.1

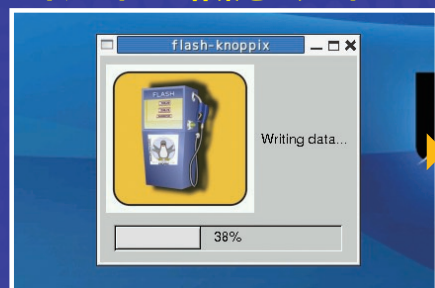
DVDドライブのないPCへはUSBメモリでインストール

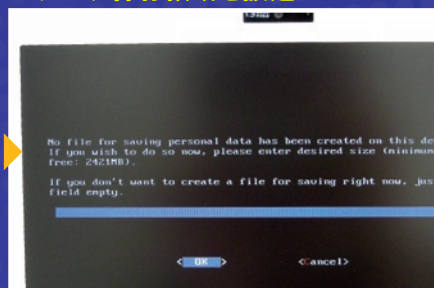
光学ドライブを持たないネットブックで、LiveCDから起動したりディストリをインストールしたりするためには、LiveUSBを作成すると良い。インストール時には2GB以上の空き容量が必要だ。

なお、今回の付録DVD-ROMに収録されたKNOPPIXは、インストール時に少々トラブルが生じてしまうため、P5の手順に従ってインストールしてほしい。

1 「システムツール」からUSBインストール用ツールを起動

KNOPPIXのUSBインストール用ツールを、メニューから起動

2 起動したツールの画面上でインストール先USBメモリを選択

現在認識しているUSBメモリが表示されるので、インストール先を選ぼう

3 USBメモリへのインストール作業をスタート

画面下のバーが100%になるまで待てば、USBメモリへのインストール作業が完了する

4 初回起動時にデータ保存領域を設定

USB KNOPPIXの初回起動時には、データの保存領域の作成が行える。MB単位で指定しよう

5 USBメモリからKNOPPIXが起動する

1GB以上のUSBメモリならば、KNOPPIXが導入可能。これならCDドライブなしでも問題ナシ

●デスクトップ>> KNOPPIXのインターフェースはこんな作り！

KNOPPIX 6.0.1

デスクトップ

シンプルさ（＝軽快さ）を突き詰めたディストリだけに、デスクトップも極めてスッキリ。「マイドキュメント」のアイコンしか表示されていないのだ。なお、デスクトップの右クリックメニューでは、アイコン整列などが行える

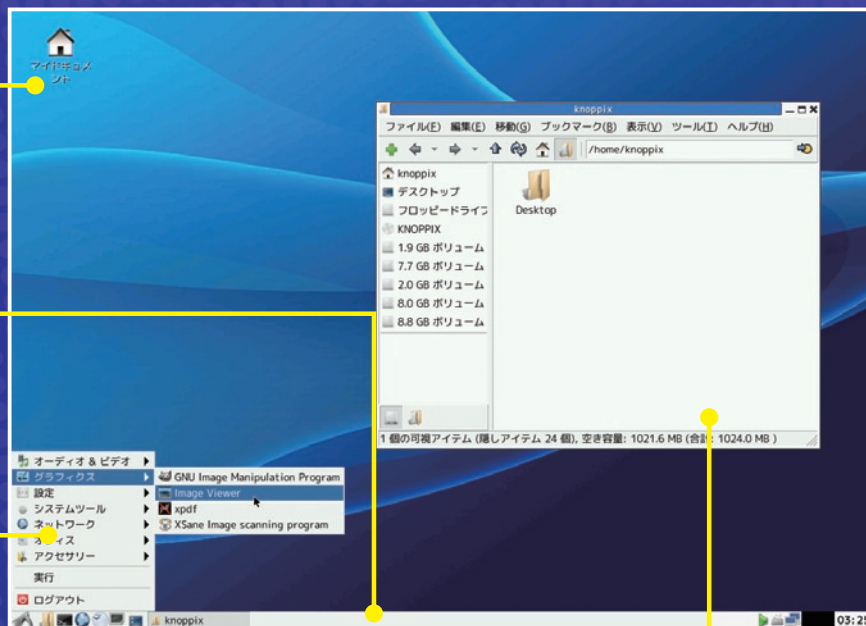
パネル&アプレット

LXDEデスクトップのパネルには、メニューボタンやアプリへのリンクのほか、時計やシステムモニタのように軽量な「アプレット」も表示されている。パネルを右クリックして、メニューからアプレットの追加・削除も可能

メニュー

パネル左端のロゴボタンから表示されるメニューも、余分なアプリケーションを削ぎ落としたため、他のディストリとは比べものにならないほどシンプル。こんなにスッキリしていると、アプリも厳選して追加したくなる?

PCmanFM

LXDEデスクトップに標準採用されているファイルマネージャが、この「PCmanFM」。UbuntuなどのGnome環境で使われる「nautilus」に匹敵する機能を持ちながら、軽快に利用できることで定評がある

●新しい機能>> 最新のKNOPPIXは何が変わったのか?

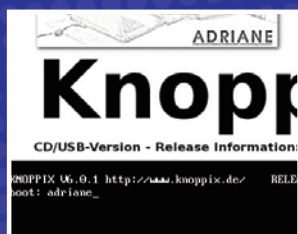
KNOPPIX 6.0.1

システム全体の軽量化により3Dデスクトップも軽快に起動!

デスクトップ環境をKDEからLXDEへ変更したほかにも、KNOPPIXバージョン6で新たに加わった要素はたくさんある。たとえば、軽快さを極めるため搭載アプリを厳選したほか、システム全体が軽快になったおかげで、Compiz Fusionが他のディストリよりも簡単に動作するようになった。また、このバージョンからの新機能「ADRIANE」は、メニュー上の選択肢（英文）を読み上げるというものだ。

不要なアプリを削除してスッキリ軽快に生まれ変わった！

バージョン5はDVD-ROMサイズで膨大なアプリを搭載していたが、バージョン6はもっとコンパクトに

英文テキストを読み上げる新機能「ADRIANE」

起動画面で「adriane」と入力し、Enterで読み上げ機能を起動する。すると、メニュー項目などの英文が読み上げられるのだ。日本語には未対応だが、ちょっと変わった操作感が味わえる

Compiz Fusionが手軽に動く！

今までのディストリでは起動しなかった3Dデスクトップが、このバージョンでは比較的簡単に動作する。UMPCでも大丈夫だ

諦めるのはまだ早い!

“壊れた”HDDからデータを取り出そう

鉄壁のデータレスキュー&バックアップ

DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

こんな状態になってもデータを救える可能性アリ!

ウィンドウズが起動しなくなった!

起動用のファイルが壊れただけならデータはまだ生き残っている!

ゴミ箱からデータを消してしまった!

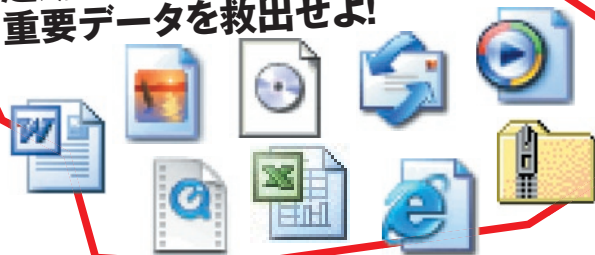
誤ってゴミ箱から消してしまったファイルでも元に戻すことができる!

HDDが認識されずフォーマットが必要!?

HDDが認識されなくなり、フォーマットを求められても早まるな!

消える・壊れる前のバックアップで鉄壁!

データが消えてしまっても、バックアップがあれば安心だ。Linuxの強力なバックアップツールでファイルを守ろう!

動画ファイル/デジカメ写真/オフィス文書 起動不能になったPCから重要データを救出せよ!

重要なファイルが詰まっていたPCが、ある日突然起動しなくなってしまった……そんなトラブルに見舞われても、Linuxでデータを救出することが可能だ。ウィンドウズユーザーでも役立つ重要データの復元ワザをマスターしよう!

準備 CD/DVDドライブからLinuxを起動する

DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

インストール不要のLinuxで重要データを即刻救出!

　ウィンドウズが起動しなくても、OSの起動に必要なファイルのデータが壊れただけで、HDDが物理的に損傷したわけではないことが多い。OSさえ使えればデータは読めるのだが、OSを再インストールするとデータが消えてしまうのが悩ましい……そこで活躍するのがCDドライブからOSを起動できる「ライブCD」。コレがあればデータの救出などお安い御用だ。

2種類のライブCDでHDDを読み取る

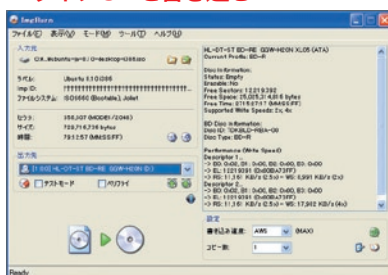
初心者でも使いやすい「Ubuntu」

ウィンドウズのHDDからUSBメモリなどにファイルをコピーする用途にはUbuntuがオススメ

高度なツールを搭載した「KNOPPIX」

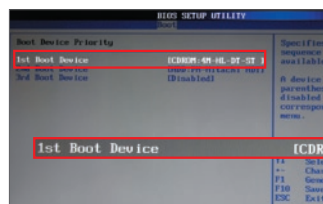
KNOPPIXはOSの起動に必要なファイルを修復できる「Testdisk」などを搭載している

ライブCDからパソコンを起動できるように設定を変更する

1.ライブCDを書き込む

UbuntuやKNOPPIXのイメージファイルをImgBurnを使ってCDへと書き込む

2.起動の優先順位を変更する

PCの電源投入直後に表示される画面で「Delete」「F1」「F2」「F10」「Tab」などのキーを押し(PCによって異なる)BIOS設定画面を呼び出す。Bootの設定に進み、「Boot Device」の優先順位をCD/DVDドライブが最優先になるように設定する

リカバリ

重要データを外部機器にコピーする

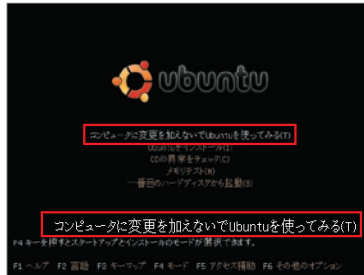
DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

ドラッグ&ドロップでカンタン USBメモリだって使える

準備終わったらパソコンの電源を入れてライブCDをCD/DVDドライブにセット。Ubuntuをインストールせずに起動させたら、ファイルマネージャでウィンドウズの入っていたHDDを開き、目的のファイルを探し出す。あとはUSBメモリなどの外部記憶装置にドラッグ&ドロップでコピーするだけでOKだ。Linuxではメモリーカードリーダーや外付けHDDなども使えるので、保存先に困ることはないハズ。

Ubuntuで見た場合のデータの所在

- **デスクトップに置いたデータ**
  /media/disk/Documents and Settings/ユーザー名/デスクトップ
- **マイドキュメント**
  /media/disk/Documents and Settings/ユーザー名/My Documents
- **Internet Explorerのお気に入り**
  /media/disk/Documents and Settings/ユーザー名/Favorites ¥
- **メールのデータ（Outlook Express）**
  /media/disk/Documents and Settings/ユーザー名/Local Settings/Application Data/ ~ /Microsoft/Outlook Express

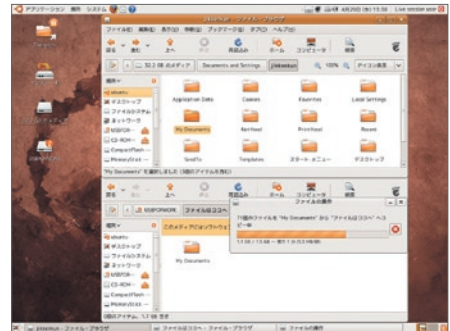
1.インストールせずに起動

CDから起動すると上のメニューが表示されるので「コンピュータに変更を加えないで使ってみる」を選ぶ

2.HDDを開く

メニューバーの「場所」から「コンピュータ」を選択。容量などを手がかりにウィンドウズのHDDを見つけだして選択しよう

3.ファイルを探し出す

HDDから救出するデータを探す。マイドキュメントなどよく使うフォルダの場所は左記を参照のこと

4.ドラッグ&ドロップで救出

データを見つけたらUSBメモリなどの外部記憶装置をPCに接続。機器が認識されたらドラッグ&ドロップでコピーしよう

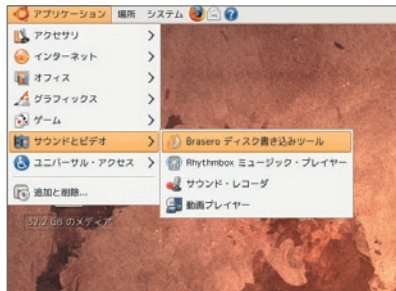
リカバリ

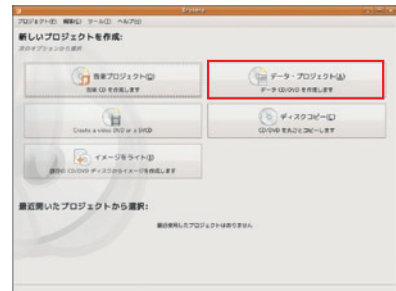
ツールを使ってCD/DVDにデータを書き込む

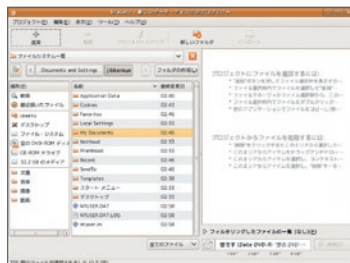
DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

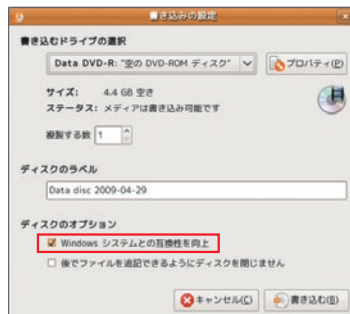
標準搭載のツールを使って CD/DVDに書き込む

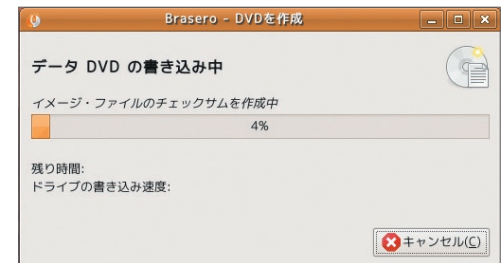
適当なUSBメモリが手元になかったり、外部記憶装置がうまく認識されなかったりする場合には、Ubuntuに最初から組み込まれているライティングソフト「Brasero」を使って目当てのデータをCDやDVDに書き込み、データディスクを作成するとよいだろう。このソフトはシンプルなGUIを採用しており、カンタンに操作できるのが特徴。ドラッグ&ドロップしてファイルを選択・追加することも可能だ。

1.Braseroを起動する

メニューの「アプリケーション」から「サウンドとビデオ」→「Brasero ディスク書き込みツール」を選択

2.データ・プロジェクトをクリック

スタート画面が表示されたら右上にある「データ・プロジェクト」ボタンをクリックする

3.ファイルを追加

左側のエリアから救出したいファイルを探して選択し、右側のエリアにドラッグ&ドロップする

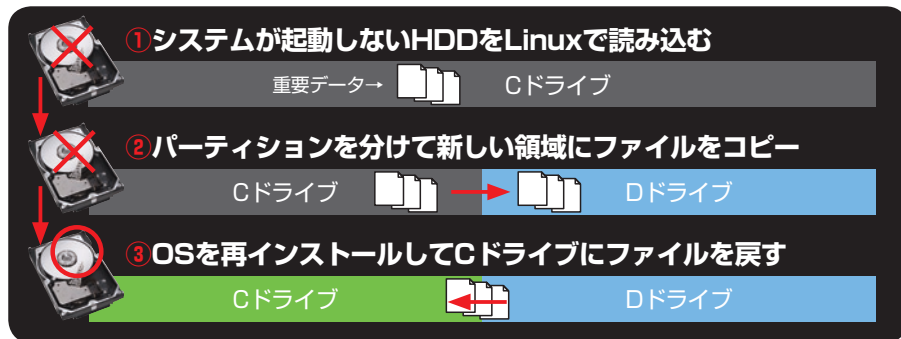
4.書き込みの設定

「作成」ボタンをクリックすると書き込みの設定画面が表示される。ディスクのオプションでは「Windowsシステムとの互換性を向上」を有効にしておこう

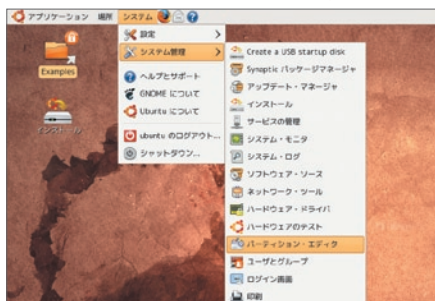
5.ライティングを実行

「書き込む」をクリックするとライティングが開始される。作業が終わるまでは、PCではほかの操作を行わずに待つようにしよう

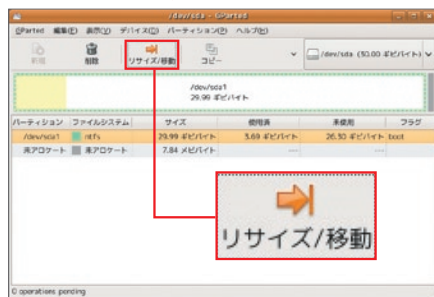
HDDを分割してデータコピー→OS再インストール

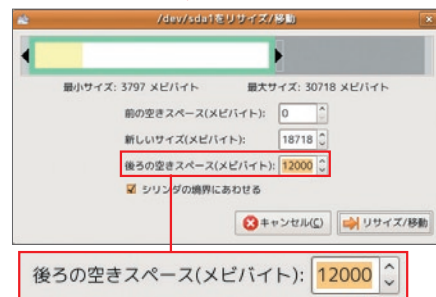
DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

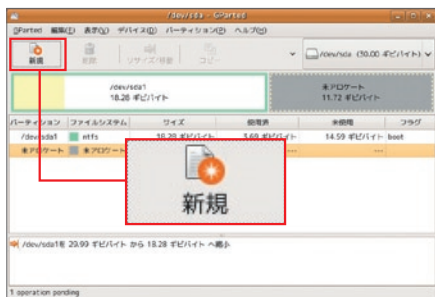
HDDに別の部屋を作って重要データを移動させる

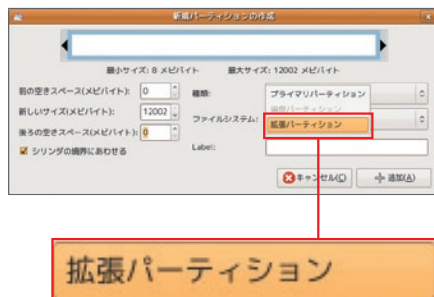
Ubuntuが搭載している「パーティションエディタ」を使うと、1台のHDDを分割（パーティションを作成）することができる。新しく分割した領域に重要なデータを移動させておけば、最初の領域にOSを再インストールしてもデータが上書き消去される心配はない。救出すべきデータ量が大きすぎてUSBメモリやDVDに収まりきらない、という場合に有効な方法だ。

パーティションを分割してデータをコピーする

1.パーティションエディタを起動

Ubuntuのメニューの「システム」→「システム管理」と進み「パーティション・エディタ」を実行する

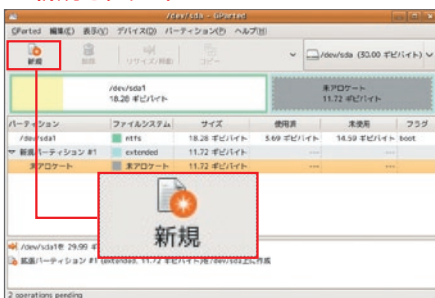
2.リサイズ/移動をクリック

分割したいHDDのパーティションを選択した状態で、「リサイズ/移動」ボタンをクリックする

3.サイズを指定する

上のウィンドウが表示されたら、「後ろのスペース」の入力欄に分割後に新しく作成する領域用に確保するサイズを入力して「リサイズ/移動」ボタンをクリックする

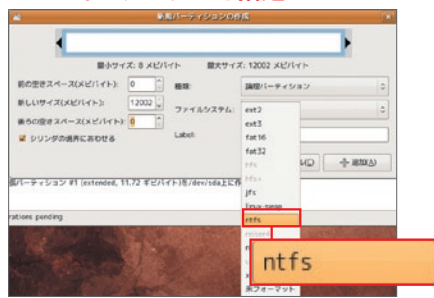
4.未割り当て領域を選択

ウィンドウ上に表示されている従来のパーティションの容量が減少し、右側に新しい領域（未アロケート）が追加されるので、それを選択して「新規」ボタンをクリックする

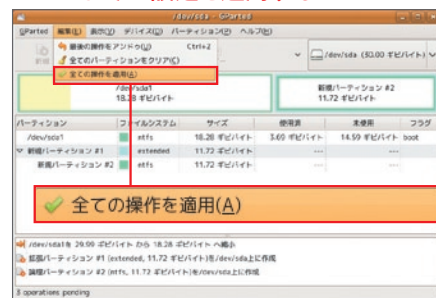
5.パーティションを指定する

「種類」の欄でパーティションの種類を選択する。今回の用途では「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」のどちらを選んでもよいが、後者のほうが望ましい

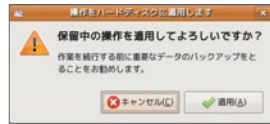
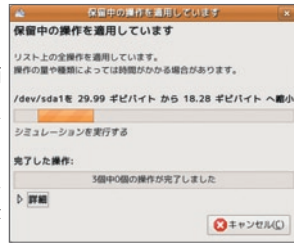
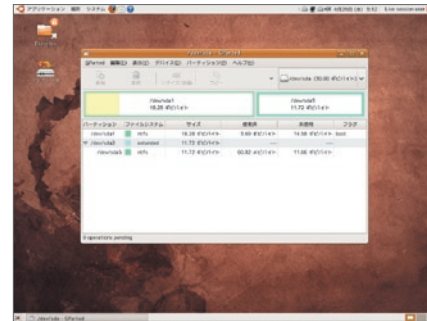
●プライマリパーティション

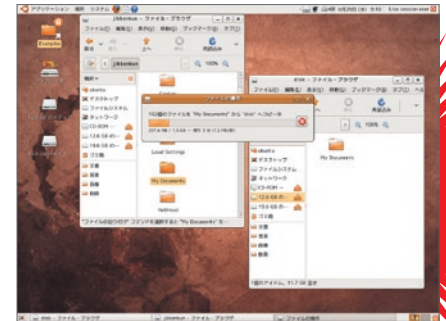
「プライマリパーティション」はシステム起動がパーティションのこと。ウィンドウズなどのOSを使用するには、プライマリパーティションにインストールする必要がある。たとえば、ウィンドウズとLinuxを1台のHDDにインストールする場合に、プライマリパーティションを使う。なお、1台のHDDに作成できるプライマリパーティションの数は4つまでなので、OSを複数インストールする予定がなければ、むやみに追加しないほうがよい。

6.新規をクリック

「新規パーティション」と「未アロケート」が追加されるので、「未アロケート」を選択し「新規」をクリックする

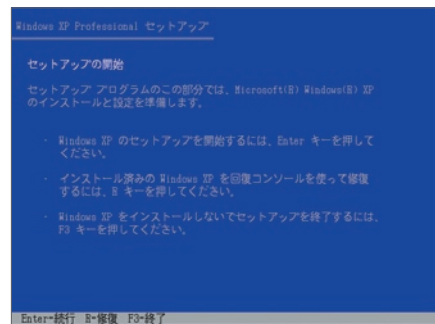
7.ファイルシステムを指定

「種類」に「論理パーティション」を指定し、ファイルシステムは「ntfs」を指定して「追加」ボタンをクリック

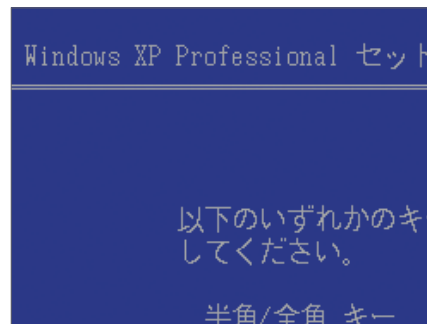
8.ここまでの設定を適用する

ここまで設定してきた内容はまだ適用されていない状態だ。実際にパーティション分割を行う場合は「編集」→「全ての操作を適用」をクリックする

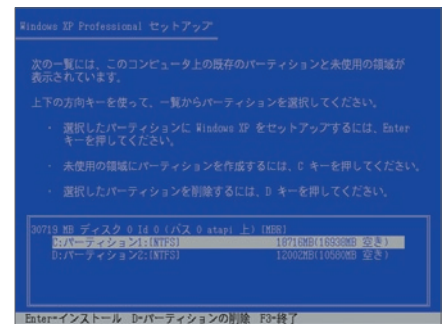
9.最終確認画面

最終確認の画面で「適用」をクリックするとパーティション分割が開始される。設定に誤りがある場合は「キャンセル」をして最初からやり直そう

10.パーティションが分割される

パーティション分割が完了したら、パーティションエディタを終了させてUbuntuを再起動する

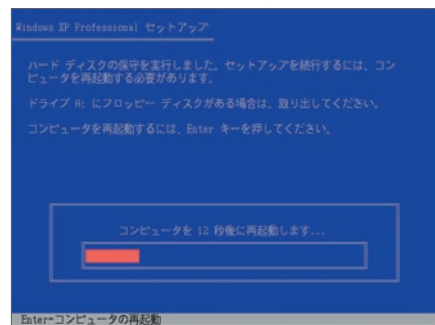
11.ファイルをコピーする

新しく作成したパーティションに重要なデータをコピーする。続いてはOSの再インストール作業を行う

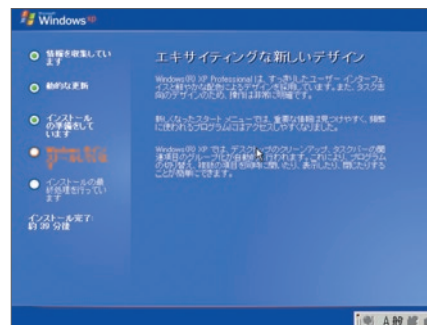
ウィンドウズの再インストールを行う

1.セットアップCDから起動

ウィンドウズのインストールディスクをPCのCD/DVDドライブにセットして電源オン。ウィンドウズのインストールプログラムが起動する(※写真はウィンドウズXPSP2の場合)。

2.キーボードの選択

画面に表示される指示に従って操作を進めていく。キーボードの選択画面が表示されたら「全角/半角」キーを押そう

3.インストール先を指定

ウィンドウズのインストール先を指定する。ここでは元々OSが入っていたパーティションにインストールするので「C」を選択する

4.ウィンドウズを再起動する

インストール前の初期設定が完了するとPCの再起動を促す画面が表示されるのでEnterキーを押して再起動する

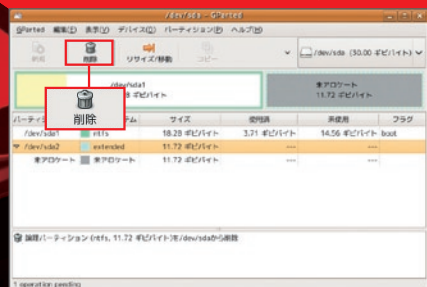
5.インストール作業を継続

PCが再起動するとウィンドウズのロゴが表示され、インストール作業が再開される。ユーザー名などの必要な情報を入力してインストールを完了させる

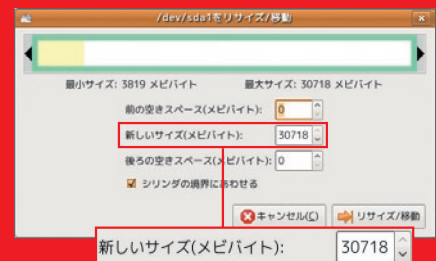
6.インストール完了

ウィンドウズのインストールが完了したら、データをコピーしておいたパーティション（Dドライブなど）を確認すること

分割したパーティションを再びひとつに結合するには

Cドライブを大きくするために分割したパーティションをもう一度まとめたい、という場合もあるだろう。パーティションエディタを使えば、複数のパーティションをまとめることも可能だ。この作業は、追加しておいたパーティションを削除してから、空いたスペースに既存の領域を広げるといった手順になるので、行う場合はDドライブのデータはCドライブへとあらかじめ移しておこう。

1.追加したパーティションを削除

Ubuntuのパーティションエディタを起動し、追加した論理パーティションを選択したら、「削除」ボタンをクリックする

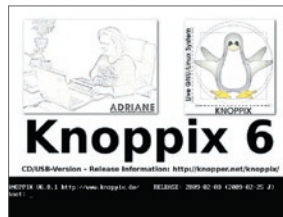
2.パーティションのサイズを広げる

残されたパーティションを選択し、「リサイズ/削除」ボタンをクリック。「新しいサイズ」欄にHDDの最大サイズと同じ数値を入力し「リサイズ/削除」をクリック。最後に「全ての操作を適用」をクリックして作業を実行

再インストールなしでOSを復活させる

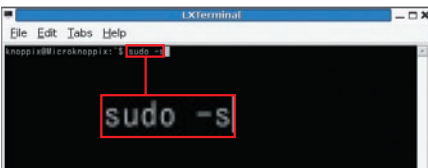
DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

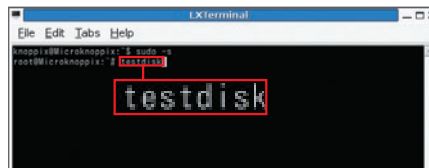
起動に必要なファイルを修復してウィンドウズを復元

OSの再インストールを行った場合、データは残すことができても、インストールしたアプリケーションなどはすべて消えてしまうので、元の環境に戻すには手間がかかる。再インストールせずにOSを復旧させたい場合は、ダメもとで「Testdisk」を試してみるとよい。なお、この作業を行う際は、必ず前もって重要なデータをUSBメモリなどにコピーしておくこと。

OSの起動に必要なデータが損傷して起動できない場合、写真のようなエラーが表示される。左側の写真の場合はウィンドウズのセットアップCDを使って修復できる可能性がある。右側の場合は「Testdisk」を使う

「Testdisk」はOSの起動に必要な「MBR」というデータ領域の破損を修復し、起動できなくなったOSを復旧することができるソフトだ。KNOPPIXのライブCDに搭載されており、ターミナルからコマンドで呼び出して使用する

「Testdisk」でハードディスクをリカバリする

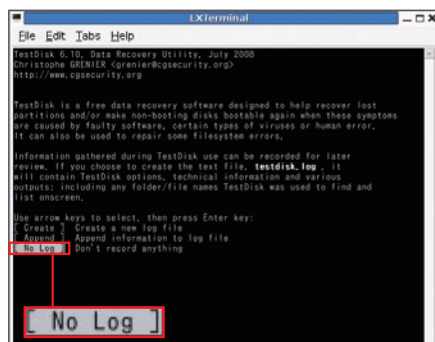
1.管理者権限を獲得する

ライブCDからKNOPPIXを起動し、タスクバーにあるターミナルのアイコンをクリックしてターミナルを実行。「sudo -s」と入力してEnterキーを押し、管理者モードで作業を進める

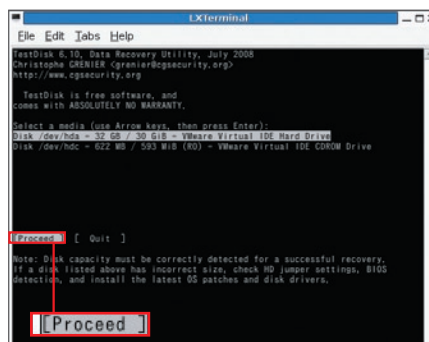
2.testdiskと入力

「root@～」というメッセージが表示されたら「testdisk」と入力してEnterキーを押し、Testdiskを実行する

●エラーが表示された場合

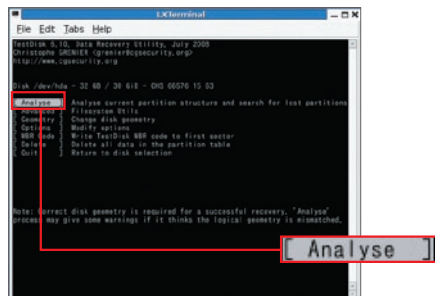
ターミナルの表示エリア（行数）を拡大しておく

Testdiskを実行しようとした際に写真のようなエラーメッセージが表示された場合は、ターミナルのウィンドウの上下の幅を25行以上の大きさに広げる

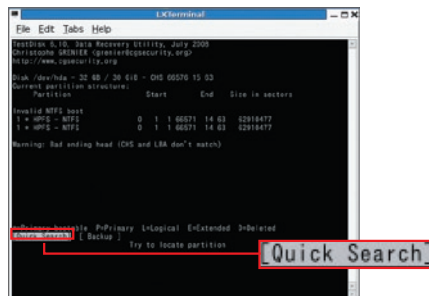
3.ログファイル作成の可否

Testdiskを起動するとログファイルを「Create」（作成）するか、「Append」（追記）するか、「No Log」（作成しない）かの確認画面が表示される。キーボードの上下でいずれかを選んでEnterキーを押す。基本的には「No Log」を選んでよい

4.復旧するHDDを選ぶ

PCに接続されている記憶装置の一覧が表示される。表示される機器は内蔵HDDだけでなく、USBメモリや外付けHDDなども対象になる。キーボードの上下で復旧するHDDを選び、左右で「Proceed」を選択してEnterキーを押す

5.「Intel」を選択する

復旧するOSのタイプを選択する。ここではウィンドウズを復旧するので「Intel」を選んでEnterキーを押す（※たとえPCに搭載されているCPUがIntel製ではなく、AMDやVIAの製品だったとしても、ここではIntelを選択しておく）

6.分析を実行

続いて表示される画面では「Analyse」を選択してEnterキーを押す

7.2回目の分析を実行

分析結果が表示される。キーボードの左右で「Quick Search」を選んでEnterキーを押す

8.パーティションの種類の選択

上のようなメッセージが表示され、このパーティションはウィンドウズVistaで作成したものであるか否かを尋ねられる。YキーかNキーを押してこの質問に答え、先に進む。どちらかはっきりしない場合はYキーを押す

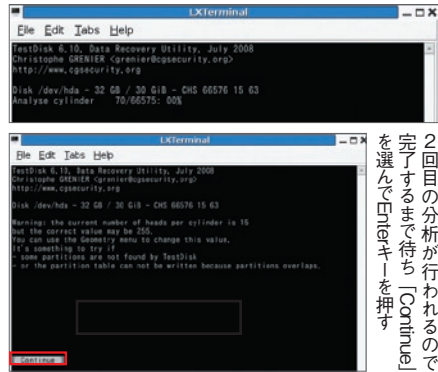
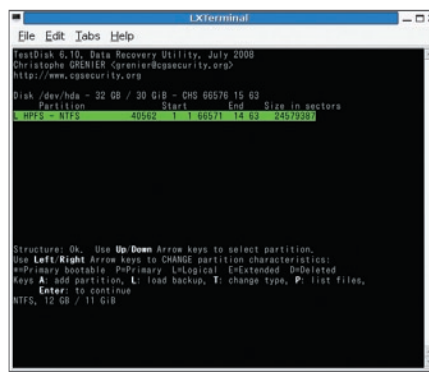
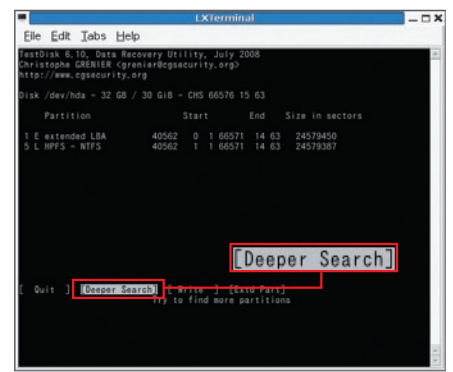
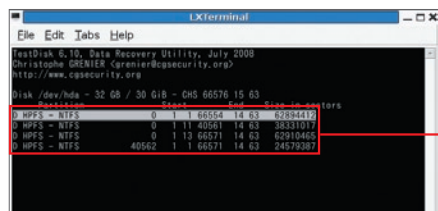
9.分析が行われる

2回目の分析が行われるので完了するまで待ち「Continue」を選んでEnterキーを押す

10.Enterキーを押す

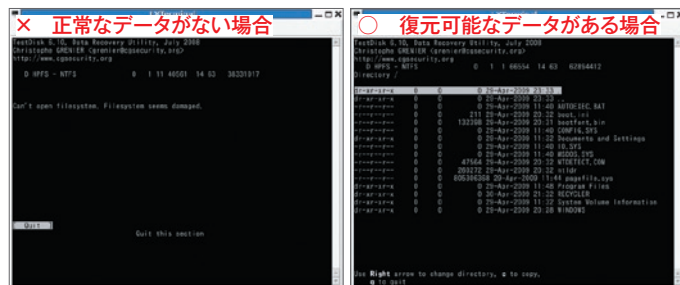
次に表示される画面ではEnterキーを押して先に進む

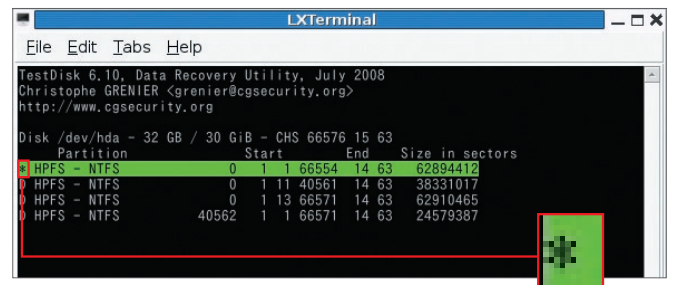
11.詳細な分析を行う

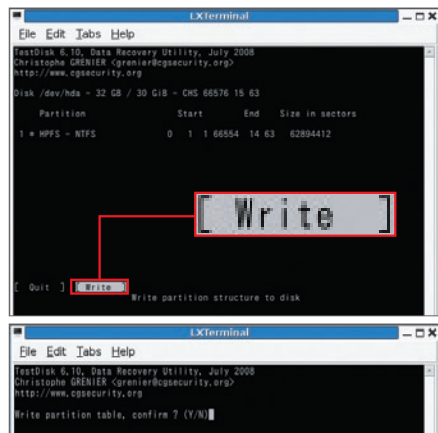
「Deeper Search」を選択してEnterキーを押し、3回目の分析を実行する

12.失われたパーティションの内容を確認する

詳細な分析結果が表示される。TestdiskはHDDに残された情報を拾い集め、起動に必要なデータを復元する。この画面では集められたいくつかの候補の中から、正解に近いと思われるものをユーザーが選択することになる

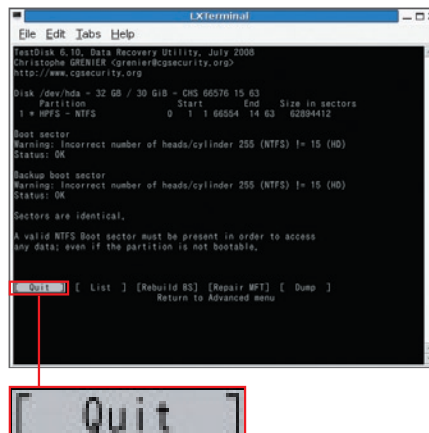
●データの開始地点·終了地点から正解を絞る

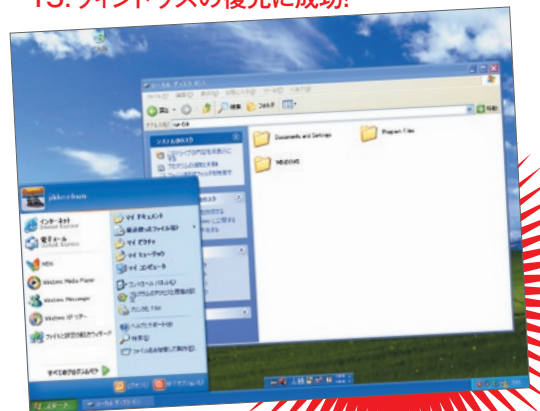
今回の例では４つの候補が表示されている。壊れる前までは1台のHDDにひとつのパーティションを作成し、ウィンドウズをインストールして使っていたので、空白の部分がある②と④は修復の対象から外され、候補としては①と③が残る

●Pキーを押して中身をチェック

残った候補を上下キーで選択してPキーを押すと、パーティションの内容が表示される。左上は③を選んだ場合。こちらはデータを見つけられなかったが、①を選んだ右側の写真ではフォルダやファイルが表示されており、おそらく①が正解であると推測できる

●リカバリするデータを決定

ここまでの分析から、一番上の候補=①を復旧すればOSを元通りに戻せる可能性が高いということがわかった。①を選んでキーボードの左右を押し、左側の記号をプライマリの起動パーティションを意味する「*」に変えてからEnterキーを押そう

13.最終確認の画面

行われる復元作業の内容が表示されるので確認し、「Write」を選んでEnterキーを押す。最後に確認画面が表示されるので、作業を開始してよければYキーを押す

14.結果が表示される

復元が完了すると上の写真のような画面が表示される。「Quit」キーを押してから、ターミナルを終了させる。KNOPPIXをシャットダウンし、ウィンドウズを起動してみよう

15.ウィンドウズの復元に成功!

復元に成功していれば、マイドキュメントやデスクトップ、インストールしたアプリケーションの情報が残ったままで、ウィンドウズを復活させることができる

誤って消去してしまったデータを取り戻す

DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

完全に消してしまったつもりのファイルでも復元は可能!

ごみ箱から消されたファイルはシステムから見えなくなっただけで、HDD上にはまだデータそのものが存在しており、ほかのデータで上書きされた時点で完全に消去される仕組みになっている。見えないデータを取り戻したければ、上書きを防ぐためにすみやかにウィンドウズを終了させてから、ライブCDのLinuxを起動し「Photorec」を用いて復元作業を行えばよい。

●消去したデータでも取り戻すことが可能

●ゴミ箱に移動させた場合

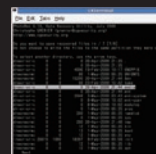
ゴミ箱に データが残る

通常の手順で削除したファイルはごみ箱に送られる。ごみ箱の中にあるファイルは取り戻すことができる

●ゴミ箱から消去した場合

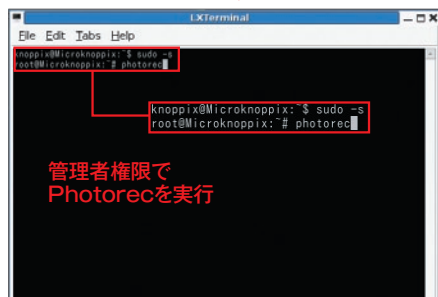
システムから 見えなくなる (データ自体は 残っている)

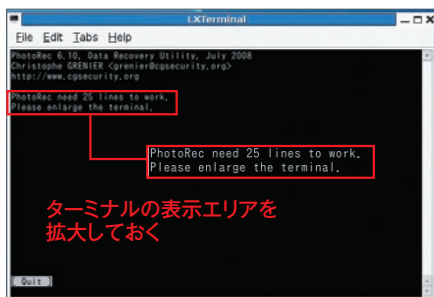
ごみ箱からデータを消した場合でも、ファイル名や保存場所に関する情報が消えただけで、本体は残っている

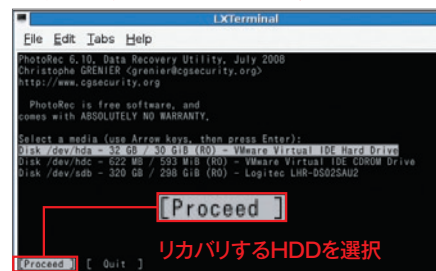
●Photorecを使うと……

復活!

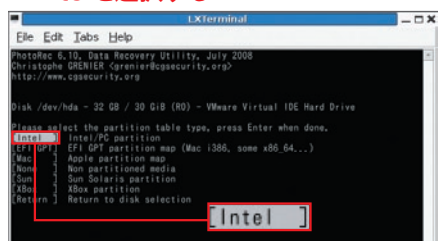
システムからは見えていないファイルの情報を拾い集めてファイルを復元。消したデータでも復元可能に

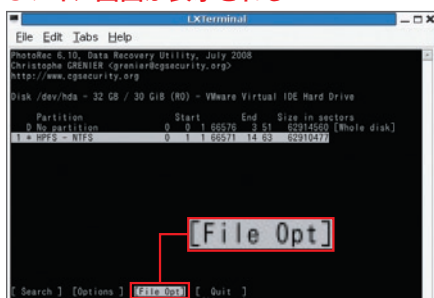
Photorecでごみ箱から消したデータを復元する

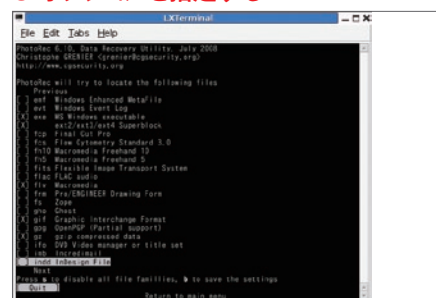
1.Photorecを実行する

KNOPPIXのターミナルを起動したら「sudo -i」と入力してEnterキーを押し、管理者権限を獲得。次に「Photorec」と入力してEnterキーを押して復元ツールを呼び出す

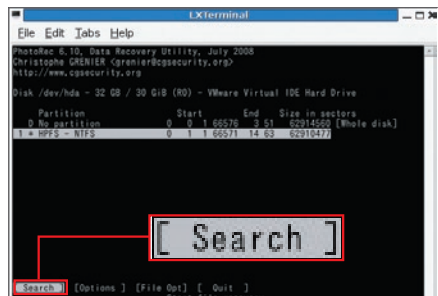
2.エラーが発生した場合

写真のようなエラーメッセージが出る場合はターミナルが25行以上表示できるよう上下のスペースを広げておく必要がある。ドラッグ&ドロップでウィンドウを拡大しよう

3.復元対象のHDDを指定する

PCに接続されている記憶装置がすべて表示される。元のデータが保存されていたHDDをキーボードの上下で選び、左右で「Proceed」を選んでEnterキーを押す

4.Intelを選択する

HDDのパーティションテーブルの種類を指定する。ウィンドウズPCを使っている場合は「Intel」(※Testdiskの場合と同じく、CPUがAMD製などでも「Intel」)を選択する

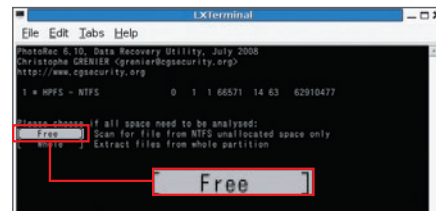
5.メイン画面が表示される

Photorecのメインメニューが表示される。まずは左右キーで「File Opt」を選択してEnterキーを押す

6.オプションを指定する

Photorecが復元対象にするファイルを拡張子で指定。上下でカーソルを移動させて拡張子を選び、左右で選択の有無を切り替え。×が付いているのが復元対象となる

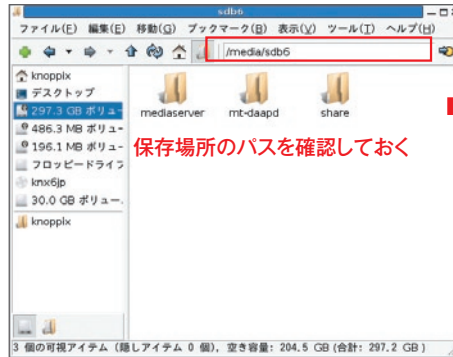
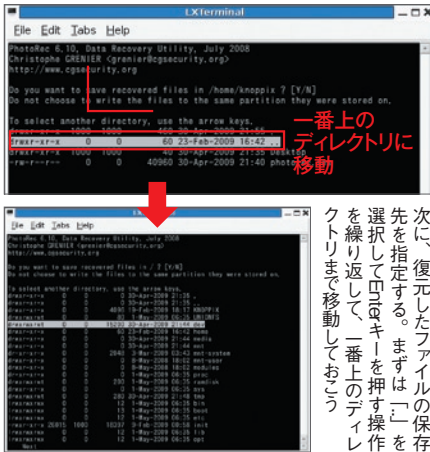
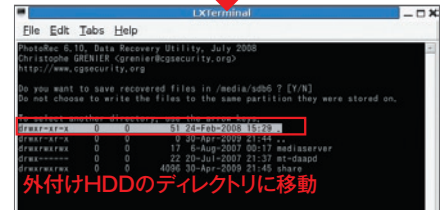
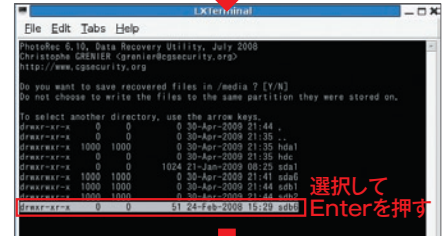
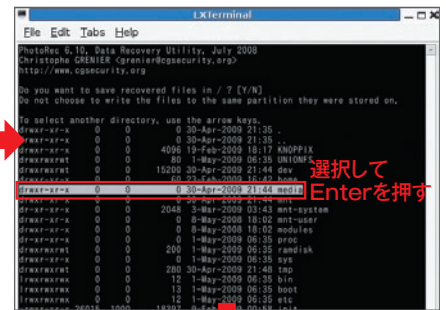
7.Searchを選択する

メイン画面に戻ったらファイルを探すパーティションを上下で選択(「No Partition」ではすべての領域の分析を行う)。次に左右で「Search」を選んでEnterキーを押す

8.ファイルシステムを指定する

復元するパーティションが利用しているファイルシステムを指定する。ウィンドウズで使っていたHDDの場合はFATかNTFSのハズなので「Other」を選択する

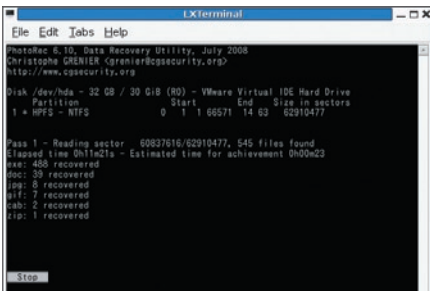
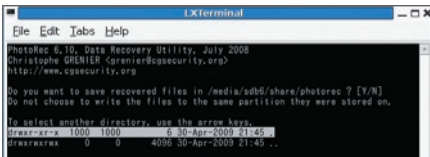
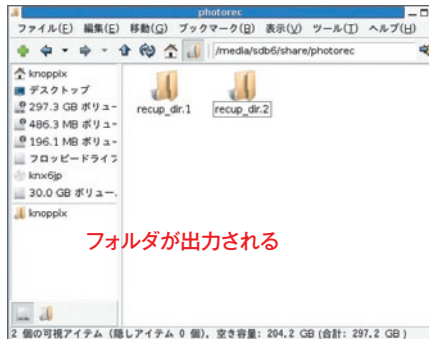
9.探索の範囲を指定する

ファイルを探索する範囲を指定する。「Free」では空き領域だけを探索し、Wholeではパーティション全体からファイルを探索する。ここでは「Free」を選択する

10.復元したファイルの保存場所を指定

次に、復元したファイルの保存先を指定する。まずは「..」を選択してEnterキーを押す操作を繰り返して、一番上のディレクトリまで移動しておこう

Photorecで探索する場所と、復元ファイルを保存する場所は別パーティションにする必要がある（下記参照）ため、ここでは外付けHDDを復元先にした。ファイルマネージャで外付けHDDのパスを確認し、ターミナルで指定の場所まで移動する

要注意! ●保存先は必ず別パーティションに！

Photorecが探索するのはシステムから見えなくなったデータであるため、復元したファイルの保存先を探索対象と同じパーティションに指定すると、次のような問題が発生する。探索対象のデータが書き込まれている領域が、復元したデータによって上書きされてしまい、復元できるハズだったデータのいくつかが復元できなくなってしまうのだ。こうした失敗を避けるためにも、別パーティションを指定するようにしよう。

11.Yキーを押して探索･復元を開始

保存場所を選択してからYキーを押すとファイルの探索がスタート。作業中は復元したファイル数や経過時間が表示される

12.復元が完了

指定した外付けHDDのディレクトリにフォルダが作成され、復元したファイルが出力される

13.ウィンドウズで開く

ウィンドウズ上でフォルダを開いてファイルを確認する。ファイル名は元通りにならないので、拡張子や容量などを手がかりにして、正しいファイル名を付け直そう

データの保存先には外付けHDDを用意しよう

Photorecは保存先の空き容量に関係なく、復元可能なファイルをすべて復元してしまうため、HDDの容量が埋め尽くされてしまうことがある。保存先としてOSをインストールしたHDDを使うのは危険があり、元のファイルが入っていたHDDも使えないので、Photorecの復元ファイル保存先としては外部機器を指定したほうがいい。HDDを換装できる外付けHDDケースがオススメだ。

■LHR-DS02SAU2

メーカー：ロジテック
実売価格：約6,000円

3.5インチのHDDをセットできる外付けケース。4色のカラーバリエーションが用意されている。低価格で使いやすく、1台持っておくと非常にベンリ

シリアルATAのHDDをカートリッジや工具不要でそのまま押し込んでセットできる。装着に必要な時間は5秒以内。接続端子はUSB2.0だけでなくeSATAも搭載する。電源は外部のACアダプタから給電するため発熱も少ない

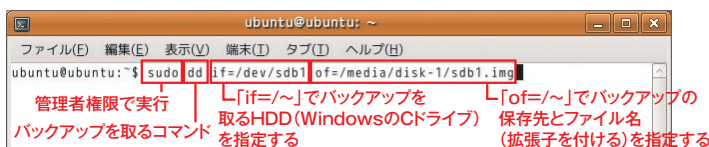
バックアップ

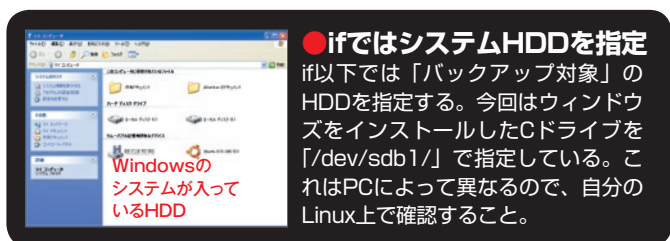
ウィンドウズのシステム全体をLinuxでバックアップ

DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

システム全体を複製して まさかのトラブルに備える

LinuxにはHDD全体をバックアップする「dd」というコマンドがあり、ターミナルから実行することでウィンドウズのシステムやアプリケーション、各種ファイルなどをすべてバックアップ可能。正常な状態の完全バックアップがあれば、HDDが物理的に壊れた場合でも、新品のHDDにデータを書き戻せば、以前の環境を取り戻せる。不測の事態の備えも万全だ。

ddでウィンドウズをバックアップする

1.ターミナルでddを実行する

ターミナルを起動して「sudo」を使い、管理者権限を取得する。ddはコマンドラインで実行する機能なので、所定の書式を用いなければならない。バックアップを取る場合は、「dd if=(バックアップ元のデバイス名) of=(バックアップの保存先/ファイル名)」となる

●ifではシステムHDDを指定

if以下では「バックアップ対象」のHDDを指定する。今回はウィンドウズをインストールしたCドライブを「/dev/sdb1/」で指定している。これはPCによって異なるので、自分のLinux上で確認すること。

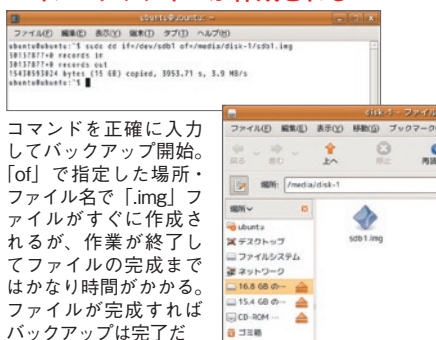
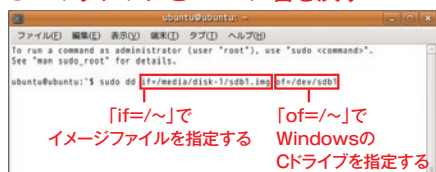
■HDS-C1.0TU2

メーカー:バッファロー
実売価格:約24,000円

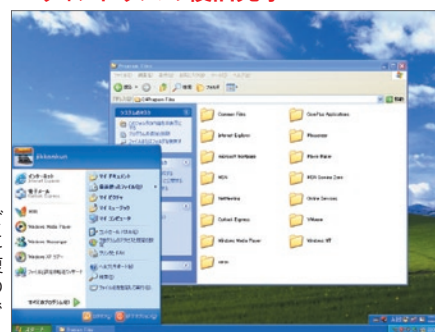
●ofでは保存先を指定

of以下では「バックアップの保存先」を指定する。「dd」では空き領域までバックアップしてしまうので、出力されるファイルが非常に大容量になる。大容量の外付けHDDを保存先に指定したほうがよいだろう。

2.イメージファイルが作成される

コマンドを正確に入力してバックアップ開始。「of」で指定した場所・ファイル名で「.img」ファイルがすぐに作成されるが、作業が終了してファイルの完成まではかなり時間がかかる。ファイルが完成すればバックアップは完了だ

3.バックアップをHDDに書き戻す

バックアップからHDDにデータを書き戻す場合は、手順1とは逆に「if」でバックアップしたファイルを指定し、「of」でCドライブを指定し実行

4.ウィンドウズの復旧完了

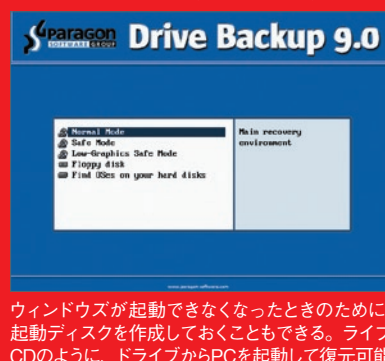
正常な状態のウィンドウズが戻った。HDDが物理的に壊れるとTestdiskでも修復できないので、システムの完全なバックアップをddで作っておいたほうがよい

コマンド入力が苦手な人は ウィンドウズのソフトを使う

Linuxのコマンドがよくわからない人、間違った操作をしてしまうのではないかと不安を感じる人は、ウィンドウズ上で使えるフリーのバックアップソフト「Paragon Drive Backup」がオススメだ。非商用利用の個人に限り、無償で使用できる。公式サイト(http://www.paragon-software.com/home/db-express/download.html)から、ダウンロードすることができる。

無料で使える多機能バックアップソフト

ウィンドウズのシステム全体を複製する「イメージバックアップ」機能を備えている

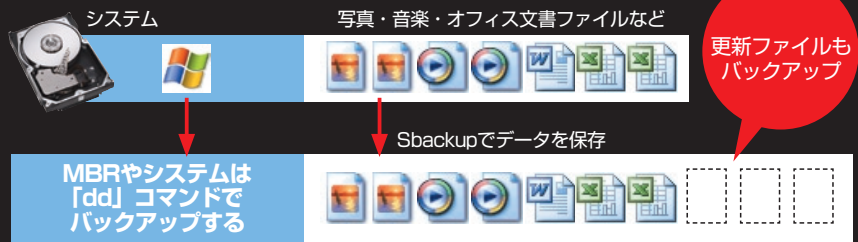
ウィンドウズが起動不能でも復帰!

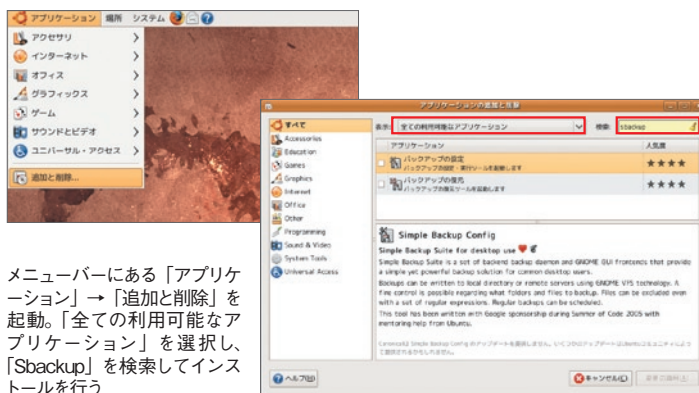
ウィンドウズが起動できなくなったときのために、起動ディスクを作成しておくこともできる。ライブCDのように、ドライブからPCを起動して復元可能

バックアップ

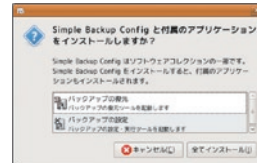
Sbackupでデータのバックアップを行う

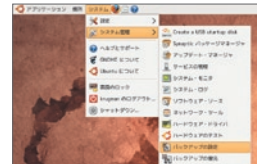
DATA RESCUE & BACKUP OF IMPREGNABLE DEFENSES

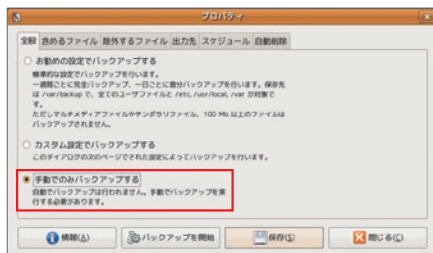
入手・作成したファイルだけを手軽にバックアップできる

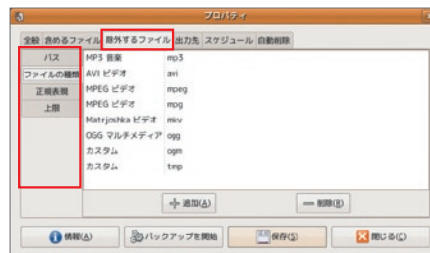
PCを日常的に使用することで増えていくファイルをバックアップしておく用途には、「Sbackup」を使うと便利だ。前回バックアップした状態を記録しておき、更新された分だけをバックアップに追加する増分・差分バックアップにも対応する。このソフトはライブCDからではなく、HDDにインストールしたUbuntuで使う必要がある。

Sbackupで日々のバックアップも完璧

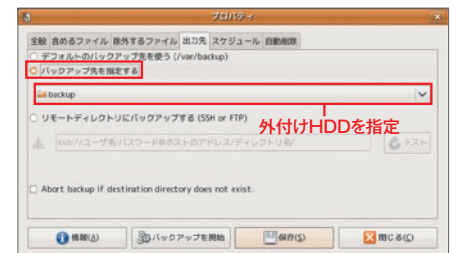
1.Sbackupをインストールする

メニューバーにある「アプリケーション」→「追加と削除」を起動。「全ての利用可能なアプリケーション」を選択し、「Sbackup」を検索してインストールを行う

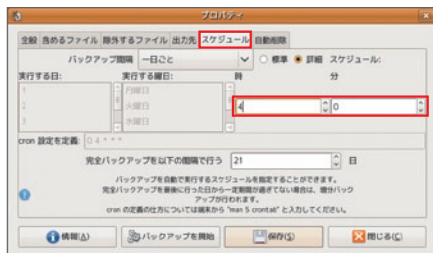
2.復元ソフトも同時にインストール

バックアップしたファイルの復元ソフトを同時にインストールするかどうかを尋ねられるので、「全てインストール」ボタンをクリックする

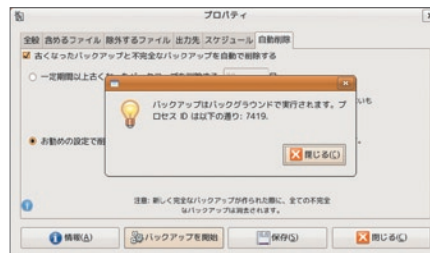
3.システム管理から実行する

バックアップを行う場合は「システム」→「システム管理」から「バックアップの設定」を起動

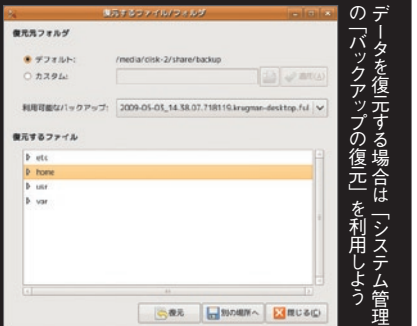
4.全般の設定

バックアップルールは自分で決めたほうが、より効率がいい。「バックアップの設定」を起動したら、まずは「全般」タブを開き「手動でのみバックアップ」を選択する

5.含める·除外するファイルの設定

「除外するファイル」タブを開く。mp3やaviなどはデフォルトで「除外するファイル」にされており、バックアップしない設定。必要に応じ「追加」「削除」で設定し直そう

6.保存先の設定

「出力先」タブでバックアップしたデータの保存先を指定する。元のデータがあるHDDとは別の機器、可能であれば外付けHDDを保存先にしておこう

7.スケジュールの設定

「スケジュール」タブでは、バックアップを行う頻度を設定する。詳細を選択すると、バックアップの間隔を特定の日数や時間の経過ごとに指定することが可能になる

8.バックアップを開始

設定が完了したら、「バックアップを開始」ボタンをクリック。スケジュールで指定した特定の時間になると、バックアップが実行される

●復元ユーティリティを使う

データを復元する場合は「システム管理」の「バックアップの復元」を利用しよう

デュアルブートでFirefox & Thunderbirdを共通化する!

WindowsとLinuxのデュアルブート環境を組んでいるならば、FirefoxとThunderbirdのデータを共通化しよう!

WindowsとLinuxのブラウザ&メール環境を同じに!

Linuxユーザーの多くは、Windowsとのデュアルブート環境を構築しているだろう。デュアルブート環境で不便なのは、FirefoxやThunderbirdなど、いずれのOSでも使えるソフトがあるのに、別々に設定を行わなければならないことだ。また、Thunderbirdのようなメールソフトの場合、Windowsでメールを受信してしまうと、Firefoxでは読むことができない。そこで、WindowsとLinuxで設定やメールデータなどを共通して、どちらのOSを起動してもいつもの環境で利用できるようにしよう。Firefoxならばブックマークやアドオン、クッキーを共通化できるし、Thunderbirdならメールの受信データやアドレス帳のデータを同じものにすることが可能になるのだ。

共通化できるデータ	Firefox	Thunderbird
	•ブックマーク •アドオン •クッキー	•メールデータ •アドレス帳 •迷惑メールなどの設定

準備編 FAT32で共通のパーティションを作成

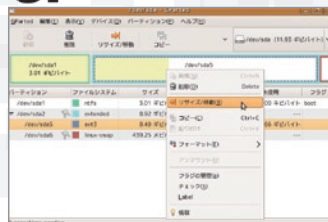
はじめに、WindowsとLinuxで共通に読める領域を作成しよう。UbuntuではWindowsXP標準のNTFSの読み書きもできるが、より確実なFAT32の領域を作っていくとよい。パーティションの作成は、UbuntuのライブCDから可能だ。パーティションエディタを起動し、HDDをリサイズして空き容量を作り、そこにFAT32でのパーティションを作成すればOKだ。

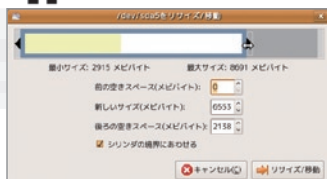
1. ライブCDとして起動

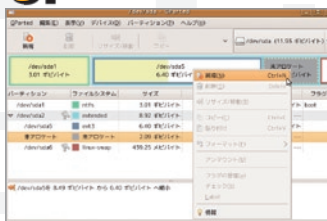
UbuntuのインストールCDをドライブに挿入し、「コンピュータに変更を加えないでUbuntuを使ってみる」を選ぶ

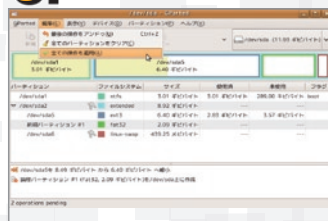
2. パーティションエディタ

メニュー「システム」→「システム管理」→「パーティション・エディタ」を選択する

3. HDD領域をリサイズ

Ubuntuをインストールしたパーティションを選択して右クリックし「リサイズ/移動」を選ぶ

4. ドラッグで調整

ドラッグで新しく作りたいパーティションの容量を調整しよう

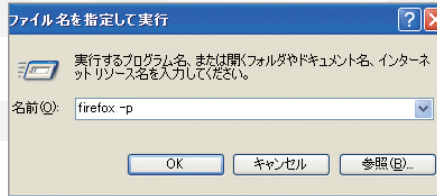
5. FAT32を割り当て

「未アロケート」の上で右クリックして「新規」を選び、「FAT32」を選択する

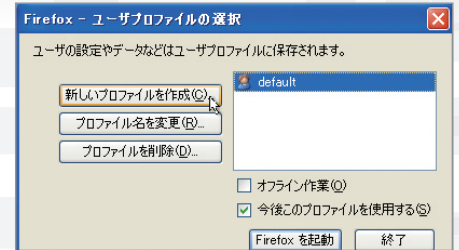
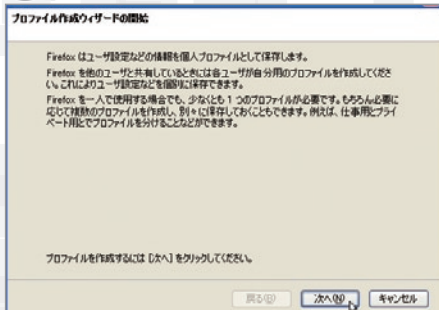
6. 変更を適用

メニュー「編集」→「全ての操作を適用」を選び、パーティションの再割り当てをする

Windows編

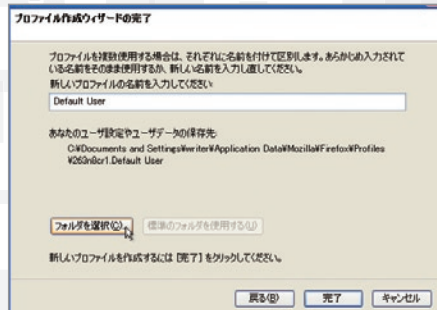
Firefoxを終了した状態で、「ファイル名を指定して実行」で「firefox -p」と入力して「OK」ボタンを押せば、プロファイルマネージャが表示される。あとは、左ページで作成したパーティションにプロファイルを作成すればよい。

インストール方法：セットアップファイル
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://mozilla.jp/firefox/

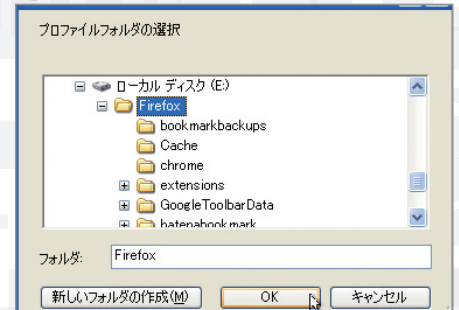
1. プロファイルマネージャの起動

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選び、「firefox -p」と入力して「OK」ボタンを押す

2. プロファイルの作成

「新しいプロファイルを作成」ボタンをクリックする

3. ウィザードの起動

プロファイル作成ウィザードが起動するので、「次へ」をクリックする

4. プロファイルの名前設定

「新しいプロファイルの名前を入力してください」に任意の名前を入れ、「フォルダを選択」ボタンをクリックする

5. フォルダの指定

プロファイルを保存するフォルダをUbuntuと共通のパーティション内に設定する

実践編 Firefoxのプロファイルの場所を変更しよう

Firefoxでは、プロファイルによってブックマーク、クッキー、履歴などあらゆる情報を管理している。つまりプロファイルをWindowsとLinuxで共通化してしまえば、デュアルブート環境でも設定を共通化できるのだ。なお、新しく共通のプロファイルを作った場合は、古いプロファイルを削除するようにしよう。また、プロファイルはWindowsから先に作った方が失敗が少ない。

Linux編

Linuxの場合は、すべてのFirefoxを終了した状態で、端末で「firefox -p」と入力してプロファイルマネージャを起動しよう。あとは、Windowsでの操作同様、新しく作成したパーティションにプロファイルを作っておけばよい。

インストール方法：初期インストール済み
ライセンス：GNU/GPL
URL：http://mozilla.jp/firefox/

1. プロファイルマネージャの起動

メニュー「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」から端末を起動し、「firefox -p」と入力してEnterキーを押す

2. プロファイルの作成

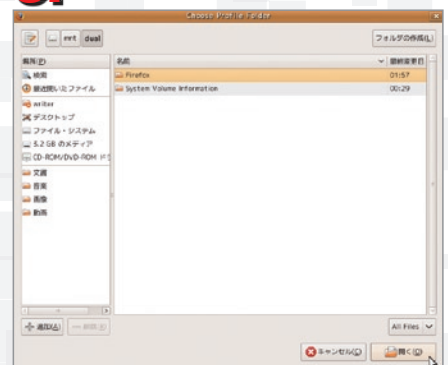
「Create Profile」ボタンをクリックしてプロファイルを作成を開始

3. ウィザードの起動

プロファイル作成ウィザードが起動するので、「NEXT」をクリックする

4. プロファイルの名前設定

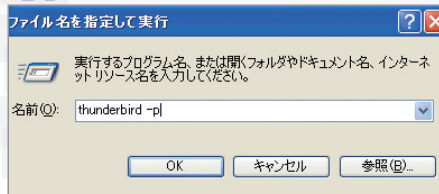
「Enter new profile name」に任意の名前を入れ、「Choose Folder」ボタンをクリックする

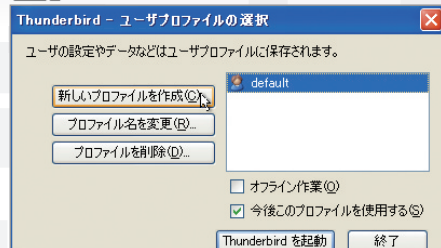
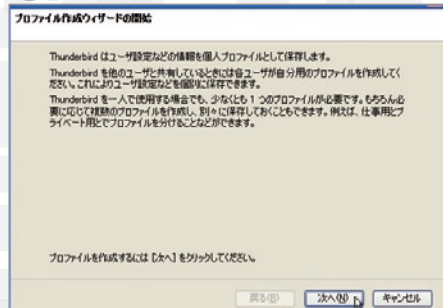
5. フォルダの指定

保存するフォルダを指定する。Windowsと共通のフォルダを選んでおこう

Windows編

Windowsの場合、あらかじめThunderbirdをインストールしておき、Thunderbirdを完全に終了した状態から、「ファイル名を指定して実行」から「thunderbird -p」と入力してプロファイルを変更すればよい。

インストール方法：セットアップファイル
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://mozilla.jp/thunderbird/

1. プロファイルマネージャの起動

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選び、「thunderbird -p」と入力して「OK」ボタンを押す

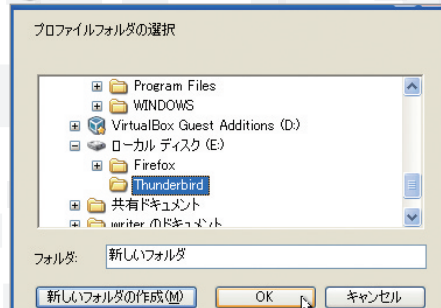
2. プロファイルの作成

「新しいプロファイルを作成」ボタンをクリックする

3. ウィザードの起動

プロファイル作成ウィザードが起動するので、「次へ」をクリックする

4. プロファイルの名前設定

「新しいプロファイルの名前を入力してください」に任意の名前を入れ、「フォルダを選択」ボタンをクリックする

5. フォルダの指定

プロファイルを保存するフォルダを指定する。Ubuntuも読み込めるパーティションのフォルダを選択しよう

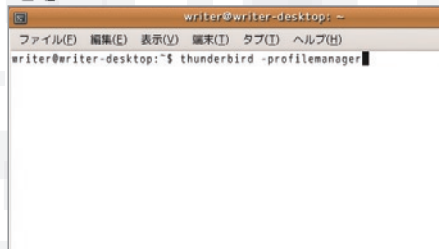
実践編 Thunderbirdもデータの共通化が可能

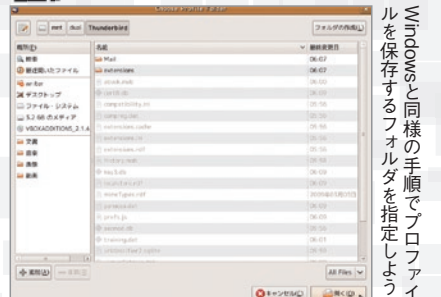
Firefox同様、メールソフトのThunderbirdもプロファイルを共通化することで、WindowsとLinuxのデータを共通化できる。Thunderbirdの場合はメールの送受信データを同じものになるため、Windowsで受信したメールをLinux側でも読むことが可能になるほか、アドレス帳も共通化できる。また、Firefoxほど数は多くないが、Thunderbird用のアドオンも共通して利用することができるのだ。

Linux編

Ubuntuの場合、標準でThunderbirdはインストールされていないので、あらかじめインストールしておく。あとは、端末から「thunderbird -profilemanager」すれば、Windowsと作業内容は同じだ。

インストール方法：「Synapticパッケージ・マネージャ」より
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://mozilla.jp/thunderbird/

1. プロファイルマネージャの起動

「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」から端末を起動し、「thunderbird -profilemanager」と入力

2. フォルダの指定

Windowsと同様の手順でプロファイルを保存するフォルダを指定しよう

Thunderbirdでファイルの共通化が完成！

Thunderbirdのインターフェイスは、WindowsとFirefoxではほとんど同じため、メールの送受信データはもちろん、メールの振り分け設定、迷惑メールの学習、アドレス帳、メールサーバの設定、シグネイチャの設定などすべて共通で利用できるのだ。

アドオンでFirefoxをより便利にしよう

Firefoxアドオンのインストール方法

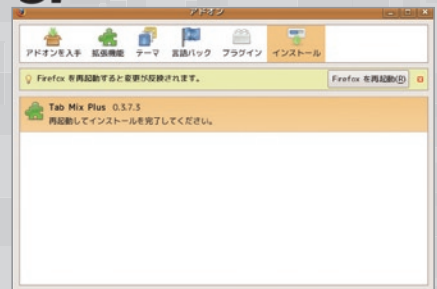
Firefoxはアドオンと呼ばれる拡張機能を使って、便利な機能を追加できる。そこで、数あるアドオンの中でもおすすめのものを紹介しよう。なお、アドオンは、Firefoxでアドオン配布ページにアクセスして「Add to Firefox」もしくは、「Firefoxへのインストール」のボタンをクリックすれば、自動的にダウンロードし、Firefoxを再起動後にインストールしてくれる。

1. アドオンのページを開く

アドオンをインストールするページをFirefoxで開き、「Add to Firefox」ボタンをクリックする

2. インストール実行

ダイアログが表示されるので「今すぐインストール」ボタンを押す

3. インストール完了

ファイルのダウンロードインストール後、再起動するとアドオンがインストールされる

Firefox おすすめアドオン紹介！

Firefoxは初期状態ではシンプルな機能しかないが、アドオンを導入すれば、ほかのタブブラウザにあるマウスジェスチャ機能や、タブ機能の拡張、UserAgentの変更などを行うことができるようになる。ほとんどのアドオンは、日本語メニューにも対応しており、すぐに利用することができるだろう。

なお、ここで紹介した以外のアドオンも、アドオンメニューの「アドオンを入手」タブより、おすすめのタグを日本語で調べつつインストールすることが可能だ。

リンクされないURLを開く

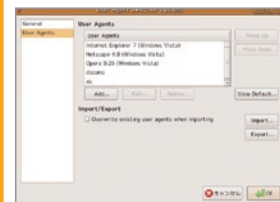
アドレス：テキストリンク
URL：https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/1939

リンクにはなっていない「http:// ～」ではじまるページをダブルクリックすると新しいタブで開くことができる。「ttp://」のように、はじめの「h」が省略されてもOKだ

リンクの開く場所や開くための動作を設定可能

UserAgerntを自由に変更

アドレス：User Agent Switcher
URL：https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/59

サーバの情報をブラウザに残すUserAgerntを変更できるアドオン。IEや携帯しかアクセスできないサイトでも、IEや携帯ブラウザと偽装すればアクセスが可能になるのだ

あらかじめ、IEなどのUserAgentが登録されており、簡単に変更できる

マウスジェスチャーが可能に

アドレス：All-in-One Gestures
URL：https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/12

Firefoxをマウスジェスチャ対応にするアドオン。マウスの右クリックを押しながら特定のアクションをすることで、「戻る」「進む」などの機能を実行できるようになる

Firefoxのあらゆる操作をマウスジェスチャとして登録できる

動画共有サイトからダウンロード

アドレス：Video DownloadHelper
URL：https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/3006

YouTubeなどの動画共有サイトから動画ファイルを一発でダウンロードできるようにするアドオン。有名な動画共有サイトはほとんど網羅している

YouTubeをはじめメジャーな動画共有サイトからボタン1つで動画をダウンロード可能

タブの機能を大幅アップ

アドレス：Tab Mix Plus
URL：https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/1122

タブ機能を拡張して、最近閉じたタブを復元したり、マウスのホイールでタブを切り替える機能、タブ上の右クリックメニューの拡張などを追加することができる

標準機能ではサポートされないタブに関しての細かい設定を行うことができる